

第20回長野工業高等専門学校参与会

日 時 令和6年1月23日(火) 10:00~12:00

場 所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者

参与：天野良彦参与(会長)、丸山陽一参与、倉島浩参与、池田明参与、渡辺雅義参与、平林靖久参与、萱津理佳参与、白井幸一参与

本校：江崎尚和(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、渡辺誠一(副校長(学生主事))、松下英次(副校長(寮務主事))、藤澤義範(副校長(専攻科長))、楡井雅巳(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長/広報企画室長)、小野伸幸(副校長(研究主事))、鹿又仁郎(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、中山英俊(工学科機械ロボティクス系長)、遠藤典男(工学科都市デザイン系長)、小池博明(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)

<陪席>西川嘉雄(教育改善委員会委員長)、鈴木宏(入試広報室長)、森田智士(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、長井俊之(学生課課長補佐)、伊藤奈津奈(総務課総務企画係長)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介(各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

江崎校長から、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の学校の状況と、海外研修や校内施設の改善などについて説明があり、本日の参与会では、本校における課題や問題について皆様の意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

天野会長から、この参与会は外部点検の意味合いもありますので、点検評価という意味でも忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

(1) 自己点検・評価項目

楡井副校長から、「資料No.1 令和5年度自己点検・評価表(重点項目)」「資料No.2 令和5年度自己点検・評価表(全体版)」「資料No.6 長野高専の教育理念、教育・運営方針、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学習・教育目標」をもとに、点検項目ごとにそれぞれ説明があり、以下の質疑応答を行った。

天野会長：最近では、学習成果の可視化に関して、ディプロマ・プログラム(DP)とカリキュラム・プログラム(CP)の関連付けや、授業科目との関連付け、そして学習進度を考慮したポートフォリオ化が重要視されるようになっていきます。この取り組みは大変ですが、御校の進捗状況はどうでしょうか？

濱口副校長：本校では、機構本部からの指導や連絡を受けながら、さまざまな整備を進めています。今回はアセスメントプランの要望があり、来年度から運用できるよう整備を進めています。全国高専と情報を共有しながら取り組んでおり、大変な作業ではありますが、進めていく必要があるという状況です。

天野会長：私どもも、現在データを活用して可視化する取り組みを行っています。興味があれば情報提供できるかもしれません。

池田参与：シラバスというのは、何年頃、発行されたのでしょうか。また、改訂のサイクルなどがあるのでしょうか。

楡井副校長：シラバスは毎年改訂を行っております。状況も変わってまいりますし、特に本校では、改組がございましたので、科目の変動もあります。そういうことも併せて、シラバスは毎年改訂を行っております。

渡辺参与：点検項目ですが、昨年も同じような項目を実施しているということでしょうか。

楡井副校長：点検項目につきましては、本校で自己点検評価表、資料No.2になりますが、こちらで定めて実施しております。昨年も同様の項目でございます。

毎年、見直しを行っております。今年も自己点検を行いました。けれども、今回、担当した者としての感想を申し上げますと、学校の場合、やっているか、やっていないかという二者択一的な項目が非常に多く、達成率という形で作って見ましたが、その数値化というものがしづらいなのというのが、担当者としての率直な感想です。できれば、

今後は、数値化しやすいような項目に見直して、より具体的な評価ができるようにと改訂していく必要はあると考えております。

渡辺参与：そうなりますと、前年の実績に対して、今年はこの評価の項目が、どうアップしているかとか、ダウンしているかとか、何ができているとか、何がまだできていないとか、この辺がもう少し分かりやすくなるといいと思います。

それと、評価制度に対するスタンスです。今おっしゃったように項目のこれやりましたというのは実行にすぎない。実行したことによって学生の支援にどのようにつながっているのかとか、どのような効果が出たのかとか、学生からどういう反応があったのかという評価の進捗と申しますか、このようなことを念頭に置いてやられることが大事かと思えます。

私も、昨年にご意見を伝えさせていただきました。発表のためのこれだけご苦労いただいて、皆さんでこれだけのものを作る。相当時間もかかるし、ただ、発表のための評価表作りみたいな、本当に学生の支援になっていたのかという、ご苦労いただいたのでしたら、いただいたなりに機能、効果が見えるものが必要かと思いました。

楡井副校長：まさにご指摘のとおりと私も感じております。やはり最終的な目標は、いい人材を育てるというところがございますので、それに向けて、どう改善をしていくか、よりよい環境を提供していくことが一番大事なところと認識しておりますので、改善していきたいと思えます。

平林参与：8番目の学習環境と学生支援の項目の中のメンタルヘルス研修ですが、どのような研修をやられていますか。

鹿又副校長：ここに記載させていただきましたのは、教職員向けのメンタルヘルス研修になります。外部講師による午後半日程度のセルフケアに関する研修会を行っております。

平林参与：学習環境及び学生支援と書いてありますが、これは、教職員のメンタルヘルス研修の実施について書かれているのですね。

平林参与：大項目3は、達成率80%という項目が多いですが、ほとんどが点検項目の再検討はまだという1行で書かれておりますが、再検討はまだということなのでしょうか。

楡井副校長：それぞれの実施状況について教務委員会の中では進んではいるのですが、他部署のところではまだ未実施の部分があるということがございます。

平林参与：これですが、検討したらすぐ再検討が必要なのではないでしょうか。

楡井副校長：今後、そのように意識づけをしていきたいと思います。

平林参与：この一文で全部80%にされていますが、本来は検討したらそれも再検討にすぐ適用していくという、本来その時間の流れとしては即やるという流れになると思いますのでぜひ、そこのところは考えていただければと思います。

丸山参与：この学習環境と学生支援の分野では、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていないことがあるように思われます。こうした学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要かと思います。難しい面もありますが、学生側からの視点を取り入れることで、例えばガイダンスの実施状況だけでなく、その内容の理解や有益性に関する評価にもつなげることができると思います。

天野会長：今のご質問と関連して、そのアンケート調査に関しては卒業生と企業も5年に一度ということの理解でよろしいですか。

楡井副校長：卒業生と企業様にアンケートを依頼するのは5年に一度になります。このアンケートを次年度予定しています。

天野会長：企業にアンケートを実施するのは結構大変だと思います。卒業生については、我々のところは毎年、卒業生には必ず実施し、卒業証書と引換えということで行っています。

楡井副校長：その意味では当該年度の卒業生にはアンケートを実施しています。ここでの卒業生アンケートはOBに対して行っているということになります。

天野会長：それは結構大変なことですね。分かりました。

楡井副校長：この卒業生アンケートですが、昨年度の参与会で回収率が15%ということについて指摘いただきましたので、次回の卒業生アンケートでは回収率をあげるため準備しております。

(2) 改組進捗状況

濱口副校長から「資料No.3 学科改組の進捗状況」をもとに、学科改組の進捗状況について説明があった。

(3) JABEE受審報告

楡井副校長から「資料№.4 JABEE受審報告」をもとに、令和5年度に受審したJABEE審査の受審報告について説明があった。

(4) 自己点検・評価項目の評価手法について

楡井副校長から「資料№.5 自己点検・評価項目の評価方法」をもとに、自己点検・評価項目の評価手法についてご意見いただきたい旨の説明があった。

(5) 質疑応答・意見交換

会議全体について、以下の質疑応答を行った。

天野会長：改組の関係で、1年時はある程度くくり入試のような形で進行し、2年時からはレイト・スペシャライゼーションという形で進められています。そのうち3割は、最初は進路を決めていなかったが、うまく配属されたとのことで、これには驚きました。我々も高校生にアンケート調査を行った際に、実際に3分の1が進路をまだ曖昧で、入学後に決めたいと回答しており、この結果を見るとかなり一致している印象を受けました。この情報は参考になると感じます。最後に、進路調整がうまくいっており、ほぼ全員が落ち着いた状態にあること、そしてそのために様々な努力がされていることがよく分かりました。

天野会長：今回、大項目3と4に絞って説明をいただきましたが、項目が多いと点検や評価が難しく、点検のための点検になっているのではないかという疑念があります。特に達成率が比較的低い項目については、その年度ごとに重点的に取り組み、最終的に外部評価を受けるための準備を進めることが望ましいと考えます。外部評価を受ける際には全ての項目が対象となると思いますので、そのためにも効果的な取り組みが必要です。

丸山参与：イノベーションのサポートセンターを設立するというお話を伺いました。このセンターは、カリキュラムの中でアントレプレナーシップやスタートアップに関する教育とどのように関連しているのか、ご説明いただければと思います。

小野副校長：エンジニアリングデザイン入門という2年次の科目がございます。今回ソーシ

ャルイノベーション・サポートセンターで企画して、その授業で学生向けに講演を行っています。今度はそれを指導する教員がスタートアップに関する知識、あるいは考え方というのが不十分なところがありますので、教員向けの講習会を準備しております。学生だけでなく、学校全体としてスタートアップに関する意識の底上げを図っています。

池田参与：先ほどの自己点検評価項目の実施すべき事項の具体化という中で、この具体化した状態を何か数値化しないと、あとで結果を数値化で評価することはできないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

楡井副校長：私もこれを担当する中でKPIの考え方だとか、OKRの考え方とかいろいろな情報を仕入れて勉強していくと、そもそも、そういう具体化するときに、数値化を念頭に置いた上で言葉に表していかないと、やはり合っていないところが見えてきました。この学校の教育活動の中をどのように数値化できるような表現に落とし込んでいくかという、そこが、結構大事なところかなと感じております。次年度に向けて、何とかつくっていければなと思っています。

天野会長：KPIの数値化って非常に難しい話で、私も大学でやっているところが悩むところです。研究とかはKPI・数値化しやすいのですが、教育はなかなか数値化というのは難しいところがあるとは思っています。なるべくしなければいけないかなと思います。

萱津参与：先ほどからシラバスの話が出ていたのですが、本学でも、今まさに、来年度のシラバス作成中で、その言葉の齟齬みたいなところを統一することが課題だと思っています。当然こういう枠があって、こういうことを書くところまではあるのですが、教員が書いたときに、書き方とか分かりやすさみたいなチェックを、書いた教員以外がしたほうがいいのではないかという話が本学で出ています。高専では、特に書かれた、完成したシラバスに関するチェックというのを別の組織でやっているのかどうかというのをお聞きできればと思いました。

楡井副校長：シラバス作成自身の担当は教務委員会で担当しております。シラバス、最初に作る時に、ひな形的なものは当然あって、こういう書き方をしてくださいというものの指導もあります。現時点では、教員もある程度慣れてきているところもあって、あまり具体的に書き方のスタイルに対して、指導というよりも、例えばルーブリック化する

ときの書きぶりだとか、そういうところは、指摘は、注意点、重要項目については、委員会でチェックしております。

萱津参与：幾つかのアンケートを取っていらっしゃるということですが、例えば、寮のところで、満足した生活の場を提供しているかというところで、アンケートを実施しているようですが、この右側のところ、満足度はどのくらいでしょうか？高専の場合は希望者が入っているということなので、満足度は高いのかなということと思うのですがいかがでしょうか。

松下副校長：このグラフ、右側に行けば行くほど良好ということになります。パワーポイント1枚全部載せると、ほぼ字が見えないという状況になりますので、おおむね評価3というのが一番多いです。右側の下の、これは寮の日課についてという項目で、よくないということになっています。これには理由がありまして、コロナ禍のときは学内の密度を下げるために寮を解放して昼間に寮の中に入ってもいいとしていました。それを昔のように、昼間は学校に行きなさい。閉めますよ。という状況に戻した途端にこうなりました。例年は、この項目は3が多いというのが例年の状況ですが、今年は特殊ということとだけ思っていればと思います。

萱津参与：アンケートの話で、さきほど卒業生、OBにアンケートを取るという話がありましたが、それは何年後の学生に取っているのか、対象がどういう形で取られているのか、どのタイミングで、どのくらいの規模で取られるのか、教えてください。

楡井副校長：大体、卒業後5年ぐらいのところを基準に、前回の実施のところは、専攻科生、本科生含めて、トータルで200通の調査を行ったということでございます。卒業後の状況、できるだけ近いところということで、大体、5年ぐらいのところまでの範囲を想定して実施しています。

萱津参与：5年たった学生なのか、1、2、3、4、5まとめて、5年なのか、いかがでしょうか。

楡井副校長：状況にもよります。連絡先の問題もあって、各出身学科のところでも数名推薦していただいて、そこで、実際のアンケートをお送りしているという状況です。

天野会長：卒業生に関するアンケートって、結構、大変だと思います。本学は、10年後と30年後の学生のやつを取っていましたがけれども、10年後と30年後の学生だと、取

ったアンケートだと意見が違って出てくるので、それは、それで面白いなと思いました。

倉島参与：先ほど丸山参与さんが述べたことにも関連していますが、私はベンチャーのソーシャルイノベーション・サポートセンターに大変関心があります。そこでは、様々なカリキュラムやポリシーの枠組みの中で教育が行われています。枠組みをしっかり取った上での教育の必要性を理解しています。しかし、例えば、起業家精神という知識以外の部分も刺激を与える取り組みが必要だと考えています。県内でも、起業家精神を持った企業が活躍している例があります。また、自己啓発やマインドセットの向上についても考える必要があります。これらの要素をカリキュラムに組み込むことは難しいかもしれませんが、柔軟性が求められます。この分野に詳しくないので、質問していますが、もし知っていることがあれば教えていただきたいです。

小野副校長：カリキュラムにあるエンジニアリングデザイン入門の中に、既に入れ込んでいます。起業家の講演会とか、これは長野市とも協力しております。そういう事業を今展開しています。ただ、ソーシャルイノベーション・サポートセンターの予算というのが今年度までの予算になり、来年度が不透明な状態になります。

ただ、エンジニアリングデザイン入門あるいは実践という中で、実際にそういう起業家マインドの助成みたいな講演会は、計画しておりますので、継続的にこの事業というのは発展させていくような体制を整備しているところでございます。

倉島参与：ようやく理解しました。そういった一つのカリキュラム体系の中には柔軟度を持って、いろいろなところに組み込めるといふ、そういう形になっているといふか、そういうことなのですね。

白井参与：点検項目の8に関するところでございますけれども、施設の設備管理状況、点検とあって、定期的に点検していただいていると思います。今回、1月1日に能登の地震がありましたけれども、長野市もある程度揺れたと思います。このような状況で、学校の施設に何か傷みなどがあつたかどうか、また、1月1日でありましたことから、休校ということで、施設管理者の方が点検をしたのか、業者さんによる点検だったのか、その辺の確認をさせていただきたいと思います。

鹿又副校長：1月1日の地震の影響につきましては、特段、施設にひびが入ったとか、設備もそうですけれども、故障などが発生したという報告は今のところ出ておりません。実

際に、1月1日の時点で警備員がおりましたので、警備員が巡回し目視の確認をしております。その後、教職員でそれぞれの設備等について目視等で確認をしたところがございます。

天野会長：今回の地震は、休日しかも1日だったということで、点検、結構大変だったと思います。本学も、建物の7階、8階のところで漏水が2件ほどありました。配管のずれですかね。1日から事務の方も出たりして、対策に当たったりして、結構、揺れがひどかったなと思います。特に高層階がひどかったようですね。

平林参与：私は、理工系の人材がますます重要性を増している中で、高専での教育に感心しています。自身が高専に関わり始めたのは去年からで、その中で高専の対応に感動しました。特に、工業系の高校の受験生が減少している中で、長野高専は中学卒業後の理工系教育の中核となるべきだと考えています。今日も先生方が子供たちのために積極的に検討し、カリキュラムを見せてくれる姿勢に感謝しています。子供たちにとって何が重要かを考え、それを育む努力をしていることを支持し、今後も継続して行ってほしいと思います。この感想を校長先生にも伝えたいと思います。

天野会長：本学のことで、高専編入のところで女子枠を設定ということで、次年度から行います。2月ぐらいに募集要項が出るとは思いますけれども、約半数を女子枠として設定します。3月に説明会も開く予定にしていますので、また、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の学習環境、学生支援、教育に関する自己点検や進行中の課題、JABEEへの対応、評価手法に関する多くの意見を頂き、これらの意見を今後の教育や評価体制に反映し、高等教育機関として充実していきたい旨の挨拶があり、引き続き、皆様の支援と協力をお願いする旨発言があった。

第 20 回長野工業高等専門学校参与会

《 次 第 》

日 時 令和 6 年 1 月 2 3 日 (火) 10:00~12:00

会 場 長野工業高等専門学校 第 1 会議室

次 第

1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 議事
 - 1) 自己点検・評価項目
 - 2) 改組進捗状況
 - 3) JABEE 受審報告
 - 4) 自己点検・評価項目の評価手法について
 - 5) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

第 20 回長野工業高等専門学校参与会 配付資料

- 長野工業高等専門学校参与会設置要項
- 第 20 回長野工業高等専門学校参与会出席者名簿／座席表

資料No. 1 令和 5 年度自己点検・評価表（重点項目）

資料No. 2 令和 5 年度自己点検・評価表（全体版）

資料No. 3 学科改組の進捗状況

資料No. 4 JABEE 受審報告

資料No. 5 自己点検・評価項目の評価方法

冊子等

- 学校要覧（2023 年版）
- GUIDE BOOK 2024
- 学園だより（189 号）
- 長野高専基金

令和5年度参与会

自己点検・評価

令和6年1月23日

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 8

学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

- 点検事項

- (1) 定期的に施設・設備の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。
- (2) 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。
- (3) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 8 : 達成率 75%、評価 4

- 有効利用を図るため施設利用状況調査を7月に実施している。
- 日常的な点検の他、専門業者による定期点検や法定点検等を実施している。
- 月1回、安全衛生巡視を行っている。
- 問題点があれば指摘を行い、改善措置の確認を行っている。


令和5年6月 安全衛生巡視実施報告書

実施日：令和5年6月20日(火) 9時00分～10時00分

巡視者：委員長(事務部長), 総務課長, 他学科教員(北山委員), 衛生管理者(中嶋学生課長)

安全管理担当者(施設係長), 衛生管理担当者(人事係長)

資料02-1

| 巡視エリア 5 | | 環境都市工学科棟及び同棟周辺屋外、専攻科棟 | | |
|---------|----------------------|--|--|---|
| 連番 | 指摘場所 (部屋) | 参考写真 | 指摘事項 | 対応・対策 |
| 6-① | 環境都市工学科棟 1階 準備室2 |  | 棚の転倒防止対策が施されていない。 (前回巡視時と同様の状況であった) | 転倒防止対策を行うこと。 |
| 6-② | 環境都市工学科棟 1階 測量準備室 |  | 棚の上に重量のある物品が置かれており、落下すると危険である。 | 物品を安全な場所へ移動すること。 |
| 6-③ | 環境都市工学科棟 1階 水理実験室 |  | 水槽の蓋が開いており、転落の危険がある。 | 開けておく必要がある場合は、周りを囲う、注意書きを貼るなどして安全を確保すること。 |

出典：令和5年度第3回安全衛生委員会資料

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 9

学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

- 点検事項

(1) 学生のニーズ調査を実施しているか。

(2) セキュリティ研修を実施しているか。

(3) ICT環境の保守・点検を実施しているか。

(4) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 9 : 達成率 50%、評価 3

- 学生ニーズ調査は年度末（意見交換会）
- 1年次の講義で実施されている。2年以降毎年のセキュリティ研修は学年会で実施されるが状況把握がされていない。
- 保守・点検は情報教育センターにて実施されている。
- 点検事項の再検討はまだ

5 学校行事とその指導

(1) 全校共通の主な行事とその指導

- ① 全校共通の主な行事には、入学式・始業式・終業式・卒業式、クラスマッチ、大掃除および清掃デー、工藤祭などがあり、それらを指導する。
- ② 特別編成授業中には、特別活動を実施する学年もあるため、それらについて計画・実施、指導する。

(2) 学年別の主な行事とその指導

- ① 学年別に行なう行事の企画・運営・指導をする。学年別の主な行事とその指導には、つぎのようなものがある。

| | | |
|------|--|---|
| 1 学年 | 特別研修の計画とその指導・引率 新入生歓迎会の指導（学生会主催） 薬物乱用防止講習会の指導 心身のケアに関する講習会の指導 進路セミナー（5年生報告会） | 交通安全講習会の指導 防災訓練の指導 2年研修旅行実施要項の策定 情報リテラシーに関する講習会の指導 |
| 2 学年 | 研修旅行事前研修とその指導・引率 特別講演会の指導 情報リテラシーに関する講習会の指導 | 防災訓練の指導 交通安全講習会の指導 スケート実習の連絡 |
| 3 学年 | 特別研修の計画とその指導・引率 防災訓練の指導 情報リテラシーに関する講習会の指導 生と性の講習会の指導 | 企業・現場見学の計画とその引率 スケート実習の連絡 心身のケアに関する講習会の指導 進路セミナー（進路選択編） |
| 4 学年 | インターンシップ事業の指導 進路（5年生）講演会実施要項の策定 進路説明会の計画と実施 卒業生講演会の計画と実施 情報リテラシーに関する講習会の指導 | 企業・現場見学の計画とその引率 進路（5年生）講演会の指導 進路セミナー（スタートアップ他）の指導 交通安全講習会の指導 |
| 5 学年 | 進路指導 卒業アルバム作成の指導 | 卒業研究発表会の指導 卒業式・謝恩会に関する指導 |

出典：学級担任業務ガイドVol4p11

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 10

図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

- 点検事項

- (1) 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。
- (2) 蔵書の点検を実施しているか。
- (3) 図書の活用状況の点検を実施しているか。
- (4) 点検事項を再検討しているか。

点検項目10： 達成率 50%、評価 3

- ブックハンティングを実施し、学生のニーズを把握している。
- 蔵書の点検は、人員の不足によりここ数年実施されていない。
- 図書の利用状況は月ごとに確認されている。
- 点検事項の再検討はまだ。

ブックハンティング参加者募集(2023夏)

1件のメッセージ

足立大輔 <toshota1@nagano-nct.ac.jp>

2023年7月19日 12:05

Bcc: zen-fnot-staff@nagano-nct.ac.jp

学生各位

図書館長

ブックハンティング参加者募集

長野高等図書館では下記のとおり「ブックハンティング(2023夏)」を開催します。
参加希望者は、申込フォーム (<http://goo.gl/WWOMMa>) からお申し込みください。

【日時】 2023年8月8日(火)
【時間】 16時頃から1時間程度
【場所】 平安堂長野店(東急シェルスエ)
(現地集合・現地解散)
※定期券がない方には旅費を支給します
【申込締切】 8月4日(火)
【定員】 10名程度

ブックハンティングとは・・・

学生の皆さんが、図書館にあったらいいなと思う本を、書店に行って楽しく選ぶイベントです。
あなたの読みたい本、読んでほしい本をさがしに行きませんか?
お申し込みお待ちしております。
※参加者にはご自身が選んだ本の推薦POPを1枚以上作成いただきます。

ご不明な点がありましたら、以下までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先:
長野工業高等専門学校図書館
Tel.026-295-7005
e-mail: toshota1@nagano-nct.ac.jp

出典：ブックハンティング参加募集

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 1

新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。

- 点検事項

(1) 新入生ガイダンスを実施しているか。

(2) 留学生ガイダンスを実施しているか。

(3) 編入生ガイダンスを実施しているか。

(4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 11 : 達成率 100%、評価 5

第11回(令和5年3月23日)
教務委員会配布資料 No. 10

2023年度 新入生の年度当初の日程について

2023.03.23

- 新入生ガイダンスを入学式当日および翌日に実施した。
- 留学生ガイダンスを入学式当日に実施した。
- 編入生ガイダンスを入学式当日に実施した。
- 第8回教務委員会において、点検事項の確認を行った。

| 実施日 | 実施時間 | 場所 | 実施内容等 | 備考(担当者等) |
|-------------|-------------|------------------------|--|--|
| 4月5日 (水) | 8:40~9:10 | 各HR | 新入生集合 | 受付担当 |
| | 9:00~9:50 | 第一体育館 | 《保護者》 新入生スペースの後方に着席 | 受付担当 |
| | 9:15~9:45 | 各HR⇒ 第一体育館 | 《新入生》 9:15からクラスごとに体育館入場 (体育館入り口3箇所) | 先導・担任 補助:総務係ほか |
| | 10:00~10:50 | 第一体育館 | 入学式 | |
| | 10:50~10:55 | 第一体育館 ⇒各HR | 《新入生》 担任紹介の後、クラスごとにHRに移動 (体育館入り口3箇所) | 先導:担任 補助:総務係ほか |
| | 10:50~11:15 | 各HR | 《新入生》 担任から誘連絡 100番教室席席表、健康診断関係配付物 | 担任 |
| | | 第一体育館 | 《保護者》 後援会からの説明 学生相談室からの連絡 | 後援会会長・副会長 学生相談室長 可会・教務主事 終了時アナウンス、誘導:嶋崎委員 |
| | 11:20~12:00 | 各HR ⇒100番教室 ⇒各HR | 《新入生》 クラスごとに100番教室に移動 《保護者》 各HRに移動 | 誘導(100番、11:15~):小原委員 誘導(4棟前、11:05~11:20):花園委員 誘導(学生玄関前、11:05~11:20):百瀬委員 |
| | | 100番教室 | 《新入生》 学習・教育目標、系の選択等について 《保護者》担任との懇談 ・高専生活のあり方 ・学校(担任)への連絡方法 ・年間予定 ・その他 誘連絡 | 教務主事 |
| | 午後 | | 必要に応じ個人面接 | |

| 実施日 | 実施時間 | 場所 | 実施内容等 | 備考(担当者等) |
|-------------|----------------|----------------|---|----------|
| 4月6日 (木) | 8:50~9:00 | 100番教室 | 担任挨拶 | 担任 |
| | 9:00~9:20 | | 担任・副担任自己紹介 | 学年会 |
| | 9:20~9:40 | | 学生生活について | 学生主事 |
| | 9:40~10:00 | | 図書館の利用について | 図書館長 |
| | 10:00~10:10 | | 学生相談室について(カウンセラー紹介) | 学生相談室長 |
| | 10:10~10:20 | | | |
| | 10:30~11:30 | 各HR | 1.当番・清掃当番について 2.学生自己紹介 3.入学式について 4.校内見学 5.金曜日からの授業について 6.貴重品の管理 7.その他 | 担任 |
| 11:30~16:00 | 第一体育館 図書館 他 | 健康診断 / 校内見学 ほか | (詳細は別紙) | |
| 4月7日 (金) | 8:50~ | HRほか | 前期授業開始 | |

出典：令和4年度第11回教務委員会資料

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 2

学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

- 点検事項

(1) 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。

(2) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 12 : 達成率 80%、評価 4

- 相談等を含む学級担任の業務をまとめたガイドブックを活用している。
- 学生相談室ポスターにより周知し、多くの学生が学生相談室を利用している。
- メール目安箱が活用されている。
- 点検事項の再検討はまだ。

3 学習に関する指導

(1) 成績の把握と個別の指導

- ① 年度当初に「身上調査」などの調査書、教務システムにて「学生指導要録」「個人別成績」にて、学生の成績を確認しておく。
- ② 達成度試験後、成績が出力されしだい、学生に成績表を配付するとともに、成績一覧表を参考に、学生の成績を把握する。
- ③ 必要に応じて学生と個別に面談し、学習や進級、進路などに関する指導・助言を行う。また、低学年は成績表を保護者等宛てに送付し、たえず保護者等との情報共有や連携につとめる。
- ④ 学年末成績にて、不可科目が4科目以下の学生については、再試に向けた学習指導を行う。保護者等との情報共有や連携につとめる。
- ⑤ 各学年の課程修了とならなかった学生については、学生自身の心身の状況に配慮しつつ、保護者等とも連携し、次年度以降の進路を検討していく。
- ⑥ 5年生になった段階で、履修状況と教育課程表と照らし合わせて卒業要件を満たす計画があるか確認するよう指導するとともに、担任も成績表や面談などで確認する。

(2) ホームルームでの指導

- ① 学習・教育目標やシラバス、学業成績の評定と進級・卒業について、理解するよう指導する。

参照

- 学生便覧(規則・規程等):「学習・教育目標」「学業成績の評定並びに進級及び卒業に関する内規」
- 高専 web シラバス(本校ホームページからアクセス):「学習到達目標」「シラバス」

- ② 学習態度や学習方法、自宅あるいは寮における学習について、適宜指導する。
- ③ 図書館の利用方法について必要な指導を行い、積極的に利用するように呼びかける。

参照 学生便覧:「図書館の利用について」「図書館利用細則」



(3) 教科担当教員との連携

- ① 教務委員会にて設定される科目間連携会議に出席し、教科担当教員との情報共有につとめる。
- ② 必要に応じて適宜、教科担当教員と連絡をとり、学生の欠課時数や学習状況を把握する。欠課時数が多い学生や成績不振学生については、連携して早めに必要な指導を行う。

(4) 達成度試験に関する指導

- ① 試験に向けて、計画的に学習するように指導する。
- ② 「受験上の注意事項」ならびに「試験時間割表」を周知徹底する。
- ③ 達成度試験1週間前から、課外活動等は禁止となるので、徹底するよう指導する。

(5) 進路指導

- ① 1学年および2学年においては、進路の決定に関する助言を行う。また、必要に応じて特別活動で高学年による講演会などを実施すると良い。
- ② 3～5学年においては、就職指導あるいは進学指導を行う。

参照

- 進路選択ガイド(毎年本科4年・専攻科1年生向けに当該学年末に発行)

- 進路指導(就職・進学)に係る学校推薦の指導方針⇒学級担任業務ガイド巻末に掲載

- ③ 主に長期休業中に実施される、就業を意識したインターンシップや起業に向けたアントレプレナースhip、編入学生向けの大学体験実習などへの参加を呼び掛ける。



3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 3

特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。

- 点検事項

- (1) 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。
- (2) 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。
- (3) 必要な支援や配慮事項を検討しているか。
- (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 13 : 達成率 80%、評価 4

- 入学前提出の保健調査票で家庭より連絡のあった事項を入学時まで学級担任と共有している。
- 機構本部からの特別な配慮を必要とする留学生の情報を、授業担当者間で共有している。
- 点検事項の再検討はまだ。

| | | |
|-------------------|--|---------------------------|
| 取扱注意 | 保健調査票 | 学籍番号 <input type="text"/> |
| 令和5年度入学 | 長野工業高等専門学校 | |
| ふりがな 氏名 | | |
| 1. 次の病気にかった | <p>「有」の場合、以下ご記入ください。 該当するものを○で囲んでください。</p> <p>1.視覚 2.聴覚 3.言語 4.肢体 5.腎臓 6.心臓 7.血液 8.その他()</p> <p>身体障害手帳交付 有 年 月 日 (級) 診断名() 無</p> | |
| 1. 心臓病 | 心配なこと、学校へ知らせておきたいことがありましたら記入してください。 | |
| 2. 腎臓病 | | |
| 3. 肝臓病 | | |
| 4. 甲状腺 | | |
| 5. 糖尿病 | | |
| 6. 喘息 | | |
| 7. てんかん | | |
| 8. 精神疾患 | | |
| 9. 血液疾患 | | |
| 10. 川崎病 | | |
| 11. 眼疾患 | | |
| 12. 耳疾患 | | |
| 13. けがなどによる後遺症 | | |
| 14. その他 | | |
| 以下については母子手帳で | | |
| 15. 麻疹 | <p>「有」の場合、以下ご記入ください。 診断について → 有 (診断名) ・ 無 ・ 疑いがある 小・中学校での支援 → 有 ・ 無 本校入学後の支援 → 希望する ・ 希望しない</p> | |
| 16. 風疹 | 心配なこと、学校へ知らせておきたいことがありましたら記入してください。 | |
| 17. 水ぼうそう | | |
| 18. 麻疹 | | |
| 19. おたふく(流行性耳下腺炎) | | |
| 2. 次の該当する項目 | <p>「有」の場合、以下ご記入ください。</p> <p>アレルギー</p> <p>(有・無)</p> <p>アドレ</p> | |
| 1. アレルギー | 心配なこと、困っていることや相談したいことがありましたら記入してください。 | |
| 2. アドレ | | |
| 3. その他 | | |
| 心配なこと、学校へ知らせ | | |

お預かりする個人情報、学生の健康状態を知り、より良い学生生活を支援するための参考にするものであり、これ以外の目的には使用いたしません。
必要に応じて保護者等宛に直接ご連絡を取らせていただく場合がございますので、ご了承のほどお願いいたします。

出典：保健調査票

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 4

学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。

- 点検事項

(1) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

(2) 各種奨学金について周知する体制を整えているか。

点検項目 14 : 達成率 80%、評価 4

- 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室と連携して支援を行なっている。いじめ対策については、学生相談室で定期的に状況を把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期開催して情報を共有して、チームで対応している。
- 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：学生相談室の様子（本校HP）

入学案内
諸経費・奨学制度（経済的支援）

※[青字の部分のリンク](#)をクリックいただくと、各手続の募集案内のページに遷移します。
※募集案内の下に書かれている（過去参考）は過年度募集があったもの、今年度の募集を終了しているものです。募集中の手続については各手続の募集案内をご参照ください。

● 奨学制度（経済的支援）

◆：給付型（返還不要） ◇：貸与型（要返還）

| 名称（制度概要） | 手続時期 （手続方法） | 1～3年生 | 4・5年生 専攻科生 |
|-------------------------------------|-------------------|------------|---------------|
| ◆高等学校等就学支援金 | 入学時4月& 毎年6～7月頃 | ○ 全員要手続 | - |
| ◆高等教育の修学支援新制度 （授業料減免+JASSO給付奨学金） | (春)4月頃 (秋)9月頃 | - | ○ |
| ◇JASSO 貸与型 奨学金 | (春)4月頃 (秋)9月頃 | ○ | ○ |

出典：奨学制度の紹介（本校HP）

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 15

進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。

- 点検事項

(1) キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。

(2) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

点検項目15： 達成率 80%、評価 4

- 進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施。本科の実務訓練は教務委員会と4学年会が、専攻科の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。
- 学級担任と系長（本科）、専攻長（専攻科）が相談・助言等を行っている。また、進路決定に関する助言や書類作成、面接対策については進路担当教員の他に、キャリアコーディネーターが相談にのれる体制を整えている。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：進路セミナー、卒業生講演会の様子

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 6

課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

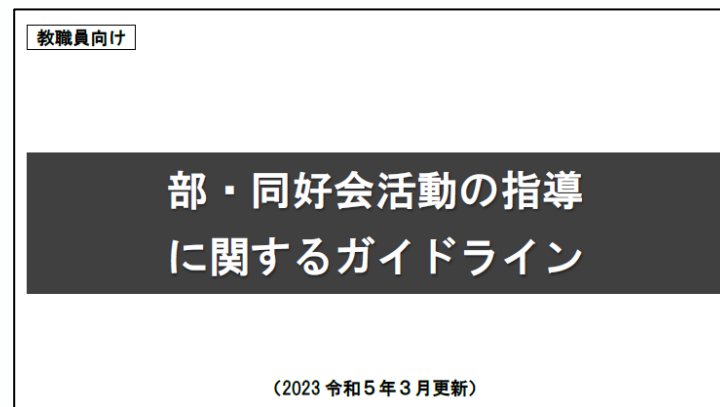
- 点検事項

(1) 課外活動の指導教員を配置して、指導できる体制を確立しているか。

(2) 教員による指導マニュアルを作成しているか。

点検項目 16 : 達成率 80%、評価 4

- 指導教員を複数配置して、課外活動を支援。平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置、教員の業務負担軽減を図っている。
- 「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」を作成して、教員が学生に対して支援しやすいよう工夫。「課外活動指導員マニュアル」を作成して、課外活動指導員が学生に対して支援しやすいようにしている。今年度、「熱中症予防に関するガイドライン」を作成して、安全に指導できるように配慮。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：部・同好会活動の指導に関するガイドライン

長野工業高等専門学校における熱中症予防に関するガイドライン
令和5年8月31日 執行会議承認

WBGT(暑さ指数)は、熱中症のリスクを評価する暑熱環境の指標として用いられている。WBGTは、夏季は設置型または携帯型のWBGT計で測定し、熱中症の予防に活用する。
WBGTは、授業中は授業担当教員が、課外活動中は学生、指導教員または課外活動指導員が確認する。活動実施の判断基準については、日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019)に従うものとする。

【熱中症予防運動指針】(日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019))

| WBGT | 湿球温度 | 乾球温度 | 熱中症予防運動指針 |
|--------|--------|--------|--|
| 31℃以上 | 27℃以上 | 35℃以上 | 危険(運動は原則中止) 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。 |
| 28~31℃ | 24~27℃ | 31~35℃ | 嚴重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。 |
| 25~28℃ | 21~24℃ | 28~31℃ | 警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。 |
| 21~25℃ | 18~21℃ | 24~28℃ | 注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給 |

出典：熱中症予防に関するガイドライン

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 7

学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

- 点検事項

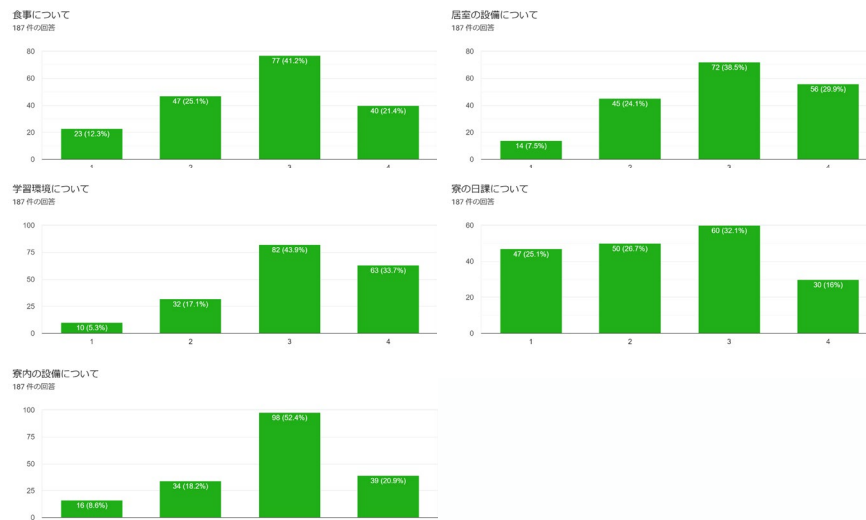
(1) 満足した生活の場を提供しているか。

(2) 勉学の場を提供しているか。

(3) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 17： 達成率 80%、評価 4

- 12月31日締めで寮生活に関するアンケートを実施している。
- 定期試験前に寮生会主催で実施している。1日1時間の勉強時間のコアタイムを実施している。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：令和5年度アンケート（中間報告）

(1) 生活日課について

次の日課表をもとに、規則正しい生活を送ってください。なお、入浴や食事での混雑を防ぐために、寮生会で時間帯や使用箇所などの決まり事を定めていますので、そちらにも従ってスムーズに気持ちよく生活できるように協力してください。

| 日 課 表 | |
|---------------|---------------------------------------|
| 00:00 ~ 07:30 | 起床・清掃 |
| 07:30 ~ 08:30 | 朝食 (休日は8:00~9:00) |
| 08:30 | 登校 |
| 12:00 ~ 12:50 | 昼食 |
| 16:30 ~ 22:30 | 入浴 (各学年で決められた時間帯に入浴) |
| 17:30 ~ 19:30 | 夕食 ^{※1} |
| 19:00 ~ 23:00 | 学習 (コアタイム ^{※2} は21:00~22:00) |
| 21:00 | 門限 |
| 21:30 | 点呼 |
| 23:00 | 自主消灯 |

※1 遅くとも19:20には食堂に入り、19:30に片付けが終わるようにすること。

※2 学習時間のコアタイムは必ず自室の机に向かって学習する態勢をとること。

※3 換風寮について、換風寮、消風寮に準ずるものとするが、イベント等で日課表に準ずることができない場合は、事前に許可をとること。

出典：寮生活の手引き

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 1 8

カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、教育課程が体系的に編成されているか。

- 点検事項

(1) CPに基づき教育課程を編成しているか。

(2) 点検事項の確認・検討をしているか。

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

• 点検項目 19

教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。

• 点検事項

- (1) 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。
- (2) 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。
- (3) 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。
- (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 19 : 達成率 100%、評価 5

- 適切な科目が配置されている。
- 教授内容はシラバスに適切に記載されている。
- 点検は教務委員会において行われている。

| 令和5年度 第6回教務委員会 | |
|---|------------|
| 日時 令和5年9月20日(水) 15:00～ | |
| 場所 第5セミナー室 | |
| 協議題 | |
| 1. インターンシップ事業について | 【資料 No. 1】 |
| 2. 工学科カリキュラムについて | 【資料 No. 2】 |
| 3. ものづくり基礎工学・基礎実験の共通授業について | 【資料 No. 3】 |
| 4. ポートフォリオについて | 【資料 No. 4】 |
| 5. 授業公開相互参観について | 【資料 No. 5】 |
| 6. 11月の特別編成授業について | 【資料 No. 6】 |
| 7. 他大学 e ラーニング科目の単位認定について | 【資料 No. 7】 |
| 8. スケート実習について | 【資料 No. 8】 |
| 9. 高専間提供科目「論理トレーニング」の履修希望状況について →27名の履修希望者あり | |
| 10. その他 ・「エンジニアリングデザイン入門」におけるポスター展示発表の日時について →令和6年2月13日(火)特別編成授業の午後2コマで実施 | |
| 次回: 令和5年10月18日(水) 15:00～ 第5セミナー室で開催予定 | |
| 1 | |

出典：令和5年第6回教務委員会

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 20

教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。

- 点検事項

(1) 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。

(2) 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 20 : 達成率 70%、評価 4

- 授業アンケート等により授業改善に取り組んでいる。
- 成績不振学生への校内学習塾による指導体制を効果的に運用している。
- 教務委員会において点検事項の確認を行った。

第11回(令和5年3月23日)
教務委員会配布資料 No.3

令和5年3月2日

令和4年度教務委員会活動報告

教務委員会で実施した活動の中で気づいた点についてまとめた。次年度の活動に反映し、改善することが本報告の目的である。各業務の担当者を中心に、本報告を考慮・参考にして次年度の活動を行う。

1. 教育課程

工学科のカリキュラムについて、改善が必要な部分があり、次年度に向けた検討が必要となっている。以下は課題：

- エンジニアリングデザイン入門・実践
- データサイエンス科目
- 副専攻科目
- 教育課程系統図の整備
- MCC 対応確認
- Web シラバスの整備

2. 学力向上対策・校内学習塾

校内学習塾

1年生の数学、2年生の数学と物理の成績不振の学生に対して、4、5年生、専攻科生（今年は専攻科生の応募はなかった）のティーチングアシスタント（TA）が教える。

前期（7/15～8/10）最大6回

1年数学 19名

2年数学 20名

2年物理 13名（2名は数学と重なっている）

後期（前半）（11/7～12/9）最大6回

1年数学 24名（TA12名）

2年生は対象学生の指定がなかったので、行うことができなかった

後期（後半）（12/14～2/2）最大10回

1年数学 13名（TA6名）

2年数学 10名（TA6名）

2年物理 12名（TA8名）

実際に学力が向上したか否かは、まだ成績表が入手できていないのでわかっていない。しかし学生への聞き取りの範囲では、成績が向上したと言う者が多い。

2年生の欠席が多いのが気になる（図1参照）。特に同じ学生が複数回休むことがあり、2年生のある学生は9回（欠席率56%）も休んでいる。そのような学生に対しては学習塾の意味があまりないと思われる。実際、この学生は、成績不振学生の情報共有において頻繁に名前が挙がっていた。対象学生の選定に関して、担任も手を焼くような学生ではなく、もっと効率よく勉強すれば成績が上がるのという学生を選んだ方が良さだろう。

出典：令和4年第11回教務委員会資料

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 1

カリキュラム・ポリシー（CP）に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

- 点検事項

(1) CPに沿って、シラバスを適切に作成しているか。

(2) シラバスを活用しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 2 1 : 達成率 100%、評価 5

- CPに沿った教育課程を編成し、教授内容を示すシラバスが作成されている。
- 各講義においてシラバスが周知され、シラバスに沿った講義が行われている。
- 教務委員会において点検事項の確認を行った。

第8回(令和4年12月14日)
教務委員会配布資料 No. 4

令和4年12月14日

2023年度シラバス作成の予定

教務委員会

2023年度シラバスについて、下記の日程で作成をお願いする予定です。

1. 担当教員の確認・修正・追加（教務委員の先生方）
拠点校の方で2022年度のシラバスを2023年度のものにコピーしております。2023年度で担当者が変更になる科目及び工学科の新規科目への担当者追加について、2023年1月11日(水)までに教務委員の先生方で修正をお願いします。
2. シラバス作成依頼（全教員）
12月20日(火)に教員向けに作成依頼を行います。締切は2023年2月28日(火)の予定です。MCCへの対応、K-SECなどへの対応などのご確認もお願いします。
3. シラバス内容の確認（教務委員の先生方）
教務委員の先生方で2023年3月1日(水)から3月8日(水)までにシラバスの内容を確認していただき、修正がある場合には修正を依頼して下さい。3月中に完成できるようお願いします。

公開は2023年4月1日(土)を予定しています。年度当初にすべてのシラバスが公開できるよう、ご協力をお願いします。

ご不明な点は教務係にお問い合わせください。

出典：令和4年第8回教務委員会資料

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 2

成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。

- 点検事項

(1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。

(2) 卒業認定の基準を周知しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 22 : 達成率 100%、評価 5

- 成績評定、単位認定基準はシラバスに記載され、周知されている。
- 卒業認定基準は学生便覧に記載され、周知されている。
- 教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

| | | | | | |
|--|--|--|----------------------------------|-----------------------------|--|
| 長野工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和5年度(2023年度) | 授業科目 | 基礎国語 I | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 0002 | 科目区分 | 一般 / 必修 | | |
| 授業形態 | 授業 | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | | |
| 開設学科 | 工学科(一般科目: 全系共通) | 対象学年 | 1 | | |
| 開設期 | 通年 | 週時開数 | 2 | | |
| 教科書/教材 | 教科書:『精選 現代の国語』明治書院、『精選 言語文化』明治書院、『精選現代の国語 学習課題ノート』明治書院、『精選言語文化 学習課題ノート』明治書院、『基礎から学ぶ新古典文法 三訂版』桐原書店、『常用漢字ダブルク』アビシング、『新放屁辞典』新語林、『新国語便覧』第一学習社、古語辞典(電子辞書でも可)、国語辞典(中学校で使用したもので良い。電子辞書でも可) | | | | |
| 担当教員 | 小池 博明 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 平易な論理的文章の構成や要旨をおおむね理解できる。 平易な文学的文章をおおむね理解でき、登場人物の心情やもの見方を、表現に即して読むことができる。 平易な古典について、その主題や内容をおおむね理解することができる。 基本的な漢字や言葉の意味をおおむね理解できる。 以上を満足することで、A-1に到達する初歩的段階の達成と認定する。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 現代文 論理的文章の理解 | 論理的文章の論理の展開をおおよそ理解し、要旨をほぼ把握することができる。 | 論理的文章の文意をおおよそ理解することができる。 | 論理的文章が理解できない。 | | |
| 現代文 文学的文章の理解 | 文学的文章について、書き手の意図をおおよそ理解することができる。 | 文学的文章の場面や情景を想像でき、登場人物の心情をおおよそ理解することができる。 | 文学的文章が理解できない。 | | |
| 語彙力 | 自らの語彙を知的好奇心をもって増やすことができる。 | 基本的な語彙がおおよそ理解できる。 | 基本的な語彙力がない。 | | |
| 古典 読解・解釈 | 古典文学の読解と解釈を意欲的に進めることができる。 | 古典文学の読解と解釈に努めることができる。 | 古典文学の読解と解釈に興味を持てない。 | | |
| 日本の伝統文化への理解 | 日本の伝統文化への理解を意欲的に進めることができる。 | 日本の伝統文化を理解しようとする。 | 日本の伝統文化に興味を持っていない。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> 国際社会への対応が希求され、進展する情報化社会の中において、国語としての日本語について理解と表現力を育む。 現代の論理的文章を学習することを通して、理解力の基礎を養うとともに、語彙や表記など国語に関する基本的な知識を身につける。 近現代の文学作品を読むことを通じて、表現に即した鑑賞ができる基礎を養うとともに、語彙を豊かにし、表現力の涵養に努める。 古典の読解・解釈を通して、日本の言語文化についての基本的知識を身につけるとともに、日本文化や日本文化に関係の深い、外国文化への理解を深める。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> 講義、教員と学生との話し合い、学生同士の話し合いなどで授業を進めるとともに、演習問題や課題を課す。 課題は期限に遅れず提出すること。 | | | | |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> <成績評価>・試験 80%・課題 20%の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 放課後16:00～17:00、一般科棟3階。 <先修科目・後修科目>後修科目は基礎国語II <備考>意見や感想の表明などは、授業や提出物などで行う。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1週 | 授業の方法の説明、なぜ古典を学ぶのか、歴史的仮名遣い | 授業の方法の説明、なぜ古典を学ぶのか、歴史的仮名遣いを理解できる | | |
| | 2週 | 読説 | 簡単な古文を音読でき、おおよそ理解できる。 | | |
| | 3週 | 古典文法 動詞① | 正格活用が理解できる。 | | |
| | 4週 | 古典文法 動詞② | 変格活用が理解できる。 | | |
| | 5週 | 古典文法 動詞③ | 動詞全体が理解できる。 | | |
| | 6週 | 随筆① | 簡単な古文を現代語訳しようとする、要めることができる。 | | |
| | 7週 | 随筆② | 簡単な古文を理解できる。簡単な助動詞が理解できる。 | | |
| | 8週 | これまでの理解度の確認 | これまでの学習内容について、理解できている。 | | |
| | 9週 | 古典文法 形容詞・形容動詞 | 形容詞・形容動詞が理解できる。 | | |
| | 10週 | 古典文法 用言 | 用言全体が理解できる。 | | |
| | 2ndQ | 11週 | 物語① | 長めの古文を現代語訳しようとする、要めることができる。 | |
| | | 12週 | 物語② | 長めの古文をおおよそ理解できる。 | |
| | | 13週 | 物語③ | 基本的な助動詞が理解できる。 | |
| | | 14週 | 物語④ | 基本的な助動詞が理解できる。 | |
| | | 15週 | 物語⑤ | 和歌について理解できる。 | |

出典：シラバス例（基礎国語 I）

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 3

成績評価は適切に行われているか。

- 点検事項

(1) 成績評価を適切に行っているか。

(2) 成績評価方法を確認しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目23： 達成率 100%、評価 5

- 授業改善システム（エビデンスのチェック）を実施し、教員へのフィードバックを行った。
- 前期エビデンスの収集を実施した。
- JABEE審査からの指摘事項を教育改善委員会等にフィードバックした。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

The screenshot shows an email interface from JABEE. The subject is 'JABEE審査 校内メールの詳細'. The email content is as follows:

★ JABEE審査からの改善事項について

差出人 : 榎井 雅巳 2023年10月13日 (金) 07:43
最終更新者 : 榎井 雅巳 2023年11月08日 (水) 11:45
宛先 : (7人) 藤澤 義範 濱口 直樹 渡辺 誠一 西川 嘉雄 松下 英次 小野 伸幸 鈴木 宏

関係各位
榎井です。

JABEE審査において指摘されました事項について、ご対応いただきますようお願いいたします。
(3)を漏らしておりましたので追記しました。(R5.11/8)

(1)「学習・教育到達目標」に統一する(基準 1.2)
学生便覧等、現在まで「学習・教育目標」と記載しているため、「学習・教育到達目標」に統一する。
対象：専攻科運営委員会、教務委員会、学生支援委員会、教育改善委員会

(2)シラバス：「課題」「レポート」等の語句(基準 2.2, 3.1)
シラバスに「課題」とあるが、エビデンスチェックシートでは「レポート」になっているなど、語句が混乱している。
学校全体で統一する必要はないと考えるが、当該科目に関する範囲では語句の扱いを統一する。
対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

(3) 学生自身の達成度の確認・点検を周知(基準 2.2)
学生による「学習・教育到達目標」達成度の点検・確認の周知を行う。
対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

以上
プログラム点検書 最終面談時.pdf (application/pdf) [詳細] 290 KB プレビュー

出典：JABEE審査からの指摘事項伝達メール

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 4

進級判定、卒業認定が適切に行われているか。

- 点検事項

(1) 進級判定を適切に行っているか。

(2) 卒業認定を適切に行っているか。

(3) 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。

(4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 24 : 達成率 100%、評価 5

- 年度末に、教員会議および執行会議において進級判定および卒業認定を行っている。
- 第7回教務委員会において、進級判定および卒業認定基準の確認を行った。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

令和4年度 臨時執行会議・第13回教員会議

日 時 令和5年3月1日(水) 10:00~

場 所 100番教室

I 協議題

1. 本科生(1~5年生)の成績判定(案)について(濱口副校長)
<机上配付・回収資料>

2. 高専間提供科目の成績判定(案)について(濱口副校長)
<机上配付・回収資料>

3. その他
・専攻科長報告(専攻科長)(資料なし)

次回 第14回教員会議 令和5年3月13日(月) 15:00~ 100番教室(予定)

本科生(1~5年生)の再試験判定案について

出典：第13回教員会議議事次第

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 5

ディプロマ・ポリシー（DP）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

(1) 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(2) 学会発表や学生表彰からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 25 : 達成率 100%、評価 5

- 設定した科目の学業成績により、学習および教育の成果を確認している。
- 学生の学会発表や表彰、受賞等により学習および教育の成果を確認している。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

**令和5年度 長野高専
「ミマキスカラシップ」受給対象者**

| 学科 | 学年 | 学生氏名 | |
|---------|----|------|---|
| 機械工学科 | 4 | 丸山 | 令和4年度 国立高専機構 学生表彰 【受賞団体】 長野高専サイバーセキュリティ同好会 |
| 電気電子工学科 | 4 | 松本 | |
| 電子制御工学科 | 4 | 橋本 | |
| 電子情報工学科 | | | |
| 環境都市工学科 | | | |

ミマキスカラシップは、
寄附金を原資として設立

令和4年度長野高専特別敢闘賞受賞者
(学科・氏名五十音順)

| 学 科 | 氏 名 | 受 賞 理 由 (概 要) |
|---------------|---------|---|
| 機 械 工 学 科 | 堀 田 駿 | 在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、海外協定校との国際交流企画への代表学生に選出されるなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。 |
| 電 気 電 子 工 学 科 | 松 下 一 歩 | 在学中、学業において特に優秀な成績を修め、5年次に卓越した学生に対する授業料免除者に選出、又、海外研修への参加や4年次には全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場するなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。 |
| 電 気 電 子 工 学 科 | 矢 花 大 季 | ロボコン部の中心メンバーとして全国高専ロボコンに連続出場し特別賞を受賞するなど優秀な成績を取ったことから長野高専学生表彰を複数回受賞、又、5年次に卒業研究の成果を学会発表し優秀賞、1～3年次に長野県発明くふう展で知事賞を連続受賞するなど本校の名誉を高め、3～5年次には学生会風紀委員長を務めるなど、そのリーダーシップは他の学生の模範となりました。 |
| 電 子 制 御 工 学 科 | 加 藤 智 祐 | 在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、卒業研究の成果を学会発表し優秀賞を受賞、海外協定校との国際交流企画への代表学生に選出されるなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。 |
| 電 子 制 御 工 学 科 | 小 嶋 蒼 依 | ロボコン部の中心メンバーとして全国高専ロボコンに連続出場し特別賞を受賞するなど優秀な成績を取ったことから長野高専学生表彰を複数回受賞、又、5年次に卒業研究の成果を学会発表し優勝するなど本校の名誉を高め、4年次に寮長を務め功労賞を受賞するなど、そのリーダーシップは他の学生の模範となりました。 |
| 環 境 都 市 工 学 科 | 塚 原 治 美 | 在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、5年間吹奏楽部に所属し部長を務め、県のコンクール等で銀賞を複数回受賞するなど、高い学修意欲やリーダーシップは他の学生の模範となりました。 |

出典： 令和4年度学生表彰受賞者等

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 6

卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

(1) 卒業時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(2) 卒業生および企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 26 : 達成率 60%、評価 3

- 卒業時に、学習・教育目標の自己評価を行い、成果を確認している。
- 卒業生および企業に対するアンケートにより、成果を確認する予定である。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

3. 令和元年度における各種点検報告

3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果

1. 卒業生および企業に対するアンケート調査の実施方針

本調査は平成 19 年 5 月 11 日に教育改善委員会で決定された申し合わせ事項も基づいて実施するものである。申し合わせ事項の必要部分を以下に抜粋する。

1-1 目的

- (1) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力に満足しているか、また、これらが（修了）後に仕事等で役に立っているかの意識について把握する。
- (2) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力が、社会においてどのような評価を得ているか把握する。
- (3) 本校の教育の成果（卒業生の満足度、社会の評価等）を点検することにより、その後の教育改善に役立てる。

1-2 内容

(1) 調査対象者

- ・長野高専本科卒業生
- ・長野高専専攻科修了生
- ・長野高専本科卒業生と専攻科修了生の就職先および進学先機関

(2) 調査回数

- ・原則として、5年毎に一回実施する。

1-3 令和元年度実施に関する基本方針

令和元年度実施に関する基本方針

1. 平成 28 年および 29 年 3 月専攻科生修了生と本科卒業生もアンケート調査の対象とする。
2. 専攻科修了生は全員（H27 年度 29 名、H28 年度 26 名、合計 55 名）とし、本科卒業生については各学科 20 名、全数 255 名とする。
3. 人選については本科卒業生に対する就職者・進学者 20 名の内訳は学科に一任する。
4. 人選された卒業生の就職先および進学先機関にアンケート調査を依頼する。
5. アンケート内容は別紙の通りとする。
6. 実施時期、令和元年 12 月から令和 2 年 1 月の間に実施する。
7. アンケート発送、回収の業務は事務部にお願いする。
8. 本調査の集計・分析・点検は当委員会が行う。

2. 実施方法

前記基本方針により、アンケート項目を決定し、令和元年 12 月末の住所が確認できた修了生および卒業生に対してアンケートを 1 月 7 日に送付した。内訳は修了生 52 名、卒業生 209 名の合計 261 名である。回答の締切りを令和 2 年 2 月 14 日と設定した。回収総数は、50 通であった。

3. まとめと提言

参考資料として付録 1 に、教育改善委員会から提出された【令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果】を示す。

調査結果の分析は令和 2 年度に行う。

出典：令和元年度教育改善委員会報告書

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 7

卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

- (1) 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。
- (2) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 27 : 達成率 100%、評価 5

- 卒業後の進路を確認し、成果を確認している。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。



| 大項目 | 小項目 | 番号 | 点検項目 | 担当 | 点検事項 | 根拠資料 | 文章 現状 | 数値 | 1から5 | 文章 | 1から5 | 文章 | |
|-------------------------|-------------|---|--|--|--|--|---|------|------|---|------|-------|--|
| | | | | | | | | 達成率% | 自己評価 | 改善点 | 外部評価 | 外部の意見 | |
| 1. 教育の 内部質保 証 | 自己点検 評価 | 1 | 自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。 | 総務主事 (教育改善委員長) | <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の事項を定めているか。 点検・評価の数値基準を定めているか。 点検・評価を四半期ごとを実施しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 | 長野工業高等専門学校自己点検評価の実施に関する要項 自己点検評価報告書(ホームページ) 以下の6つの各種点検・改善システムの報告書 自己点検評価項目による点検システム 年度計画項目による点検システム DP、CP、APの点検・改善システム 各委員会の重点項目点検システム 授業改善システム 学生への支援体制点検システム | <ol style="list-style-type: none"> 昨年度参与会の指摘より、自己点検・評価の評価手法を変更し、実施した。 評価手法として、点検事項の達成度を数値化することとした。 上期での点検・評価が十分に行われなかった。 手法の再検討を行いながら評価作業を行っている。 | 60 | 3 | 令和4年度参与会にて、自己点検・評価の評価基準が曖昧であると指摘された。これを受けて、年度始めより検討し、6月に提案した。 | | | |
| | | 2 | 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。 | 総務主事 | <ol style="list-style-type: none"> 学校構成員の意見聴取の規則を定めているか。 意見検討の手続きが定められているか。 実施の効果について検討しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 | 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果 教育改善報告書 | <ol style="list-style-type: none"> 学校構成員および学外関係者の意見聴取の規則は、各種点検改善システムとして定めている。 意見検討の手続きは、各種点検改善システムとして定めている。 実施の効果については、教育改善委員会にて検討する予定。 点検・評価手法の再点検はまだ | 50 | 3 | | | | |
| | 3つのポ リシー | 3 | 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。 | 教務主事 専攻科長 | <ol style="list-style-type: none"> DPを定めているか。 CPを定めているか。 APを定めているか。 3ポリシーの見直し必要性について検討しているか。 | 1-3. 準学士課程および専攻科の3つのポリシー 4. 執行会議資料 アセスメントプラン | <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度に、改組新学科である工学科の3ポリシーを新たに策定し、現行の5学科および専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜の基本方針を入れる修正を行った。 DP、CP、APを定めている。 アセスメントプランの整理とあわせて検討予定。 | 80 | 4 | 社会状況に応じて見直ししていく。 | | | |
| 2. 組織及 び教員・教 育支援者 | 学校組織 | 4 | 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。 | 事務部長 | <ol style="list-style-type: none"> 時宜を見ながら学校運営体制の見直しを行っているか。 運営体制が機能しているか適時点検・確認しているか。 | 組織図、内部組織規則、校務分掌一覧、会議資料 (議事概要) | <ol style="list-style-type: none"> 年度末の執行会議・運営会議において、次年度の学校運営体制の見直しを行っている。 毎月の執行会議・運営会議で各種会議・委員会からの報告がなされ運営体制が機能していることを確認している。また、年度途中であっても、執行会議において必要があれば運営体制を見直すこととしている。 | 75 | 4 | | | | |
| | 教員等の 配置 | 5 | 準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。 | 教務主事 専攻科長 事務部長 | <ol style="list-style-type: none"> 一般科目担当教員を適切に配置しているか。 専門科目担当教員を適切に配置しているか。 教育支援者を適切に配置しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1, 2. 教員の専門分野と担当科目一覧(学校要覧、時間割表) 3. 技術支援部の支援一覧 4. 執行会議資料 | <ol style="list-style-type: none"> 教員および教育支援者を適切に配置している。 担当科目数の確認とともに点検状況を報告予定。 | 80 | 4 | | | | |
| | 教員の評 価 | 6 | 教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。 | 校長 教務主事 専攻科長 | <ol style="list-style-type: none"> 教員の採用や昇任に関する基準があるか。 採用・昇任認基準を適切に運用しているか。 教員の教育研究活動を定期的に評価しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 採用・昇任などの人事規則 2. 執行会議資料 3. 教員顕彰 業務計画および校長面談の実施 4. 執行会議資料 | <ol style="list-style-type: none"> 教員採用や昇任に関する基準が定められている。 教員採用や昇任に関する基準が適切に運用されている。 業務計画・報告などにより教員の教育研究活動が定期的に評価されている。 採用や昇任の基準をより明確にするなど、点検が行われている。 | 100 | 5 | | | | |
| | FD活動 | 7 | FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているか。 | 総務主事 (教育改善委員長) | <ol style="list-style-type: none"> FD研修会を3回実施しているか。 実施FD研修会の効果を検討しているか。 SD研修会を3回実施しているか。 実施SD研修会の効果を検討しているか。 点検事項を再検討しているか。 | 1. 教育改善報告書 2. 20231120第4回教育改善委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> FD研修会を数度実施した。 FD研修会を教育活動に生かすため、年度の途中で報告書を送り、研修を振り返ってもらうこととした。3月頃FD研修の効果についてのアンケートを予定し11/24メール送信済 SD研修会を数度実施した。 SD研修会の効果検討はまだ FD研修会の評価方法を検討し年度末に実施予定 | 60 | 3 | | | | |
| 学習環境 | 8 | 学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。 | 事務部長 | <ol style="list-style-type: none"> 定期的な施設・設備の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | 安全衛生委員会報告 キャンパスマネジメント委員会議事概要 施設の管理状況：点検・検査記録等 | <ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会にて、毎月職場巡視(4/17、5/16、6/20、7/13、8/28、9/21、10/17、11/15実施済み)を実施し、職場の安全衛生を点検し、委員会で適宜改善を図っている。 メンタルヘルス研修会、11/14に実施済み。 救急法(AED)講習会を、教職員を対象に11/20に実施済み。 施設の維持管理については、施設管理者による日常的な点検に加え、契約による定期点検や法定点検等を実施している。 居室等の稼働状況を把握し、資産の有効活用を図っており、今年度は施設利用状況調査を7月に行った。結果は情報共有し、稼働率が低い居室等は有効活用に向け引き続き検討を行うこととしている。 | 75 | 4 | | | | | |
| | 9 | 学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。 | 教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長) | <ol style="list-style-type: none"> 学生のニーズ調査を実施しているか。 セキュリティ研修を実施しているか。 ICT環境の保守・点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | 1. 学生の満足度調査結果 2. 情報教育センター報告 3. 第〇回情報セキュリティ推進委員会議事概要 4. 第〇回情報教育センター議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 学生ニーズ調査は年度末(意見交換会) 1年次の講義で実施。2年以降毎年のセキュリティ研修は学年会で実施されるが状況把握がされていない。 保守・点検は情報教育センターにて実施されている 点検事項の再検討はまだ | 50 | 3 | | | | | |
| | 10 | 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。 | 総務主事 (図書館長) | <ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。 蔵書の点検を実施しているか。 図書の活用状況の点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 | 図書館蔵書数 図書館利用状況 | <ol style="list-style-type: none"> ブックハンティングを実施し、学生のニーズを把握している。 蔵書の点検は、人員の不足によりここ数年実施されていない。 図書の活用状況は月ごとに確認されている。 点検事項の再検討はまだ。 | 50 | 3 | | | | | |
| | 11 | 新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。 | 教務主事 専攻科長 | <ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを実施しているか。 留学生ガイダンスを実施しているか。 編入生ガイダンスを実施しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 新入生の年度当初の日程について新入生のための学習のアドバイス 専攻科 新入生ガイダンス実施要領 2. 外国人留学生生活ガイドブック 3. 編入生入学式の日程表 4. 第8回教務委員会議事概要 | <ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを入学式当日および翌日に実施した。 外国人留学生および編入生ガイダンスを入学式当日に実施した。 第8回教務委員会において点検事項の確認を行った。 | 100 | 5 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---------|----|--|---|---|---|---|-----|---|--|--|--|--|--|
| 3. 学習環境及び学生支援 | 学生支援 | 12 | 学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。 | 教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長) | 1. 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。 2. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 学級担任ガイドブック 2. 学生相談室報告 3. メール目安箱、学生の満足度調査結果 4. 執行会議資料 | 1. 相談等を含む学級担任の業務をまとめたガイドブックを活用している。 2. 学生相談室ポスターにより周知し、多くの学生が学生相談室を利用している。 3. メール目安箱が活用されている。 4. 点検事項の確認はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| | | 13 | 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。 | 教務主事 専攻科長 国際交流センター長 学生相談室長 | 1. 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。 2. 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。 3. 必要な支援や配慮事項を検討しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 保健調査票様式 2. 国際交流センター会議資料 3. 外国人留学生チューターの手引き 4. 執行会議資料 | 1. 入学前提出の保健調査票で家庭より連絡のあった事項を入学時までに学級担任と共有し、配慮の希望について家庭に確認している。 2. 機構本部からの特別な配慮を必要とする留学生の情報について、授業担当者間で共有している。 3. 点検事項の確認はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| | | 14 | 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。 | 学生主事 専攻科長 学生相談室長 | 1. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 2. 各種奨学金について周知する体制を整えているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 学生相談室報告 授業料免除利用状況 奨学金実績 学生支援委員会報告 学校いじめ対策委員会議事次第 | 1. 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室と連携して支援を行っている。いじめ対策については、学生相談室で定期的状況把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催して情報を共有して、チームで対応している。 2. 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。 | 80 | 4 | | | | | |
| | | 15 | 進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。 | 教務主事 学生主事 (進路支援室長) 専攻科長 | 1. キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。 2. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 進路指導状況報告書 進路講演会実施要項、進路説明会開催要項 インターンシップ事業の実施要項と実施の手引きと実施数等 キャリアセミナー開催要項 | 1. 進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。また、本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。 2. 本科生に対しては学級担任と系長(学科長)が、専攻科生に対しては専攻長が相談・助言等を行っている。また、進路決定に関する助言や書類作成、面接対策については進路担当教員の他に、キャリアコーディネーターが相談にのれる体制を整えている。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。 | 80 | 4 | | | | | |
| | | 16 | 課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。 | 学生主事 | 1. 課外活動の指導教員を配置して、指導できる体制を確立しているか。 2. 教員による指導マニュアルを作成しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 部・同好会活動の指導に関するガイドライン 部・同好会 指導教員一覧 学生の病氣・ケガに対する対応報告書 | 1. 部・同好会に指導教員を複数配置して、課外活動を支援している。また、平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置して、教員の業務負担軽減を図っている。 2. 「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」を作成して、教員が学生に対して支援しやすい工夫している。また、「長野高等専修学校指導員マニュアル」を作成して、課外活動指導員が学生に対して支援しやすいようにしている。なお、今年度は「長野工業高等専門学校における熱中症予防に関するガイドライン」を作成して、安全に指導できるように配慮した。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。 | 80 | 4 | | | | | |
| 4. 進学生課程の進級及び卒業判定 | 教育課程の編成 | 17 | 学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。 | 寮務主事 | 1. 満足した生活の場を提供しているか。 2. 勉学の場を提供しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 勉強会の開催通知 満足度調査結果(学生との懇談会報告) | 1. 12月31日締めで寮生活に関するアンケートを実施している。 2. 定期試験前に寮生会主催で実施している。1日1時間の勉強時間のコアタイムを実施している。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。 | 80 | 4 | | | | | |
| | | 18 | カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。 | 教務主事 | 1. CPlに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 教育課程表および教育課程系統図 2. 第8回教務委員会議事概要 | 1. CPlに基づいた教育課程を編成している。 2. 工学科の教育改定の再検討は完成年度後に予定。 2. アセスメントプランに対応する検討が行われている。 | 100 | 5 | | | | | |
| | | 19 | 教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。 | 教務主事 | 1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-3. 教育課程表およびシラバス(科目の抜粋) 4. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 適切な科目が配置されている。教授内容はシラバスに適切に記載されている。 2. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| | | 20 | 教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。 | 教務主事 | 1. 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-2. 授業改善報告書および授業公開アンケート(eーラーニング、フィールド型、情報機器活用、学力不足学生への配慮、連携、教材の工夫などの抜粋) 3. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 授業アンケート等により授業改善に取り組んでいる。成績不振学生への校内学習態による指導体制を効果的に運用している。 2. 授業改善報告書による確認を行う予定である。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 70 | 4 | | | | | |
| | | 21 | カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。 | 教務主事 | 1. CPlに沿って、適切なシラバスを作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-2. シラバス 授業改善報告書 3. 第8回教務委員会議事概要 | 1. CPlに沿った教育課程を編成し、教授内容を示すシラバスが作成されている。 2. 各講義においてシラバスが周知され、シラバスに沿った講義が行われている。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| 成績評価・進級及び卒業判定 | 成績評価 | 22 | 成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。 | 教務主事 | 1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. シラバス 2. 教育課程表 3. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 成績評価、単位認定基準はシラバスに記載され、周知されている。 2. 卒業認定基準は学生便覧に記載され、周知されている。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| | | 23 | 成績評価は適切に行われているか。 | 教務主事 総務主事 (教育改善委員会) | 1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-2. シラバス 授業改善システム(エビデンスのチェック) 3. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 授業改善システム(エビデンスのチェック)を実施し、教員へのフィードバックを行った。 2. 前期エビデンスの収集を実施した。 3. JABEE審査からの指摘事項を教育改善委員会にフィードバックした。 4. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|----------------------------|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|
| 学習・教育の成果 | 24 | 進級判定、卒業認定が適切に行われているか。 | 教務主事 | 1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 卒業認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-2. 進級・卒業判定資料 会議の開催案内 3. 第7回教務委員会議事概要 4. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 年度末に、教員会議および執行会議において進級判定および卒業認定を行っている。 2. 第7回教務委員会において、進級判定および卒業認定基準の確認を行った。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| | 25 | ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。 | 教務主事 | 1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 卒業判定資料 2. 卒業研究の学会発表件数 学生表彰・受賞一覧 3. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 設定した科目の学業成績により、学習および教育の成果を確認している。 2. 学生の学会発表や表彰、受賞等により学習および教育の成果を確認している。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| | 26 | 卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。 | 教務主事 | 1. 卒業時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 卒業生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 学習・教育目標の達成度自己評価調査票 2-3. 卒業生および企業に対するアンケート調査 4. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 卒業時に、学習・教育目標の自己評価を行い、成果を確認している。 2. 卒業生および企業に対するアンケートにより、成果を確認する予定である。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 27 | 卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 | 教務主事 | 1. 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 進路指導報告書（就職先・進学先一覧） 2. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 卒業後の進路を確認し、成果を確認している。 2. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | |
| | 28 | カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。 | 専攻科長 | 1. CPIに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 教育課程表 系統図（7年分） | 1. 系統図上では、専攻科単独で科目表を構成しているが、本科で基本的事項を学習し、専攻科で応用的なことが学べるように構成している。 2. 社会からの要請の変化に対応するため見直しを随時行っている。 | 50 | 3 | | | | | |
| 5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果 | 29 | 教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。 | 専攻科長 | 1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 教育課程表 系統図（7年分） シラバス（科目の抜粋） | 1. 科目に関しては必要に応じて見直しを行っている。 2. 「機能デザイン」「学外実習」「実践工学演習」を実施している。 3. 「英語特論I」を実施している。 4. 随時確認を行っている。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 30 | 教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。 | 専攻科長 | 1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 修了認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 対話型、eラーニング、フィールド型、情報機器活用、学力不足学生への配慮、連携、教材の工夫など特色ある授業例（授業改善報告書書や授業公開より、抜粋） | 1. 科目ごとにシラバスに掲載し、説明している。 2. 年度当初のガイダンスで説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 31 | カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。 | 専攻科長 | 1. CPIに沿って、シラバスを適切に作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | シラバス 研究指導計画などの実施要項 専攻科の研究発表会、学会等への参加状況 | 1. CPIに沿ってシラバスの作成をおこなっている。 2. 初回の講義にてシラバスの説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 32 | 成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。 | 専攻科長 | 1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 学生へのアンケート調査結果 | 1. 科目ごとにシラバスに掲載し、説明している。 2. 年度当初のガイダンスで説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 33 | 成績評価は適切に行われているか。 | 専攻科長 総務主事 (教育改善委員会) | 1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 授業改善システム(エビデンスのチェック) | 1. 授業改善システム(エビデンスのチェック)を実施し、教員へのフィードバックを行った。 2. 前期エビデンスの収集を実施した。 3. 点検事項の再検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 34 | 修了認定が適切に行われているか。 | 専攻科長 | 1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 修了認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・修了認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 修了判定資料および会議の開催 | 1. 専攻科運営委員会および執行会議で行われた。 2. 随時行っている。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 35 | ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。 | 専攻科長 | 1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 特別研究の学会発表件数および学生の表彰・受賞一覧 学校として把握できる資料 専攻科生 修了判定資料 専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定 | 1. DPIに沿った学習・教育が認められ、23名が専攻科を修了した。 2. 学会発表を通じてDPIに沿った学習・教育が認められた。 3. 随時確認している。 | 100 | 5 | | | | | |
| | 36 | 修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。 | 専攻科長 | 1. 修了時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 自己評価シート、学習・教育目標達成調査、ループリク形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用、専攻科修了生・学習教育目標達成など 卒業生および企業に対するアンケート調査 | 1. 意見交換会のアンケートにより、成果等を確認している。 2. 企業アンケートにより、成果等を確認する予定である。 3. 随時検討している。 | 60 | 3 | | | | | |
| | 37 | 修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 | 専攻科長 | 1. 修了時の学生の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 学位取得状況 過去5年間の就職先・進学先一覧 | 1. 修了時の学位取得状況にて確認している。 2. 修了後の進路状況にて確認している。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ | 38 | アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。 | 教務主事 | 1. APIに基づき入学者選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1. 入学者推薦選抜及び学力検査実施要領 2. 第○回入学者選抜委員会議事概要 | 1. APIに基づき入学者選抜を実施している。 2. 点検事項の確認・検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | |
| 39 | | 入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 | 教務主事 | 1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-3. 入学者選抜委員会議事概要 | 1. 入学者がAPIに沿っているか検証している。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に向けた検討に用いている。 3. 点検事項の確認・検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| 40 | | 受検者数増加対策は効果的に行われているか。 | 教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長 入試広報室 | 1. 受検者数増加対策を検討しているか。 2. 受検者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 1-2. オープンキャンパス(体験入学)実施要項 本校ホームページ、各種広報活動 男女共同参画推進の事業 3-4. 第○回入学者選抜委員会議事概要 | 1-2. 学校説明会(8/30)、オープンキャンパス(7/8、10/30)を実施した。 3-4. 検証および点検事項の確認はまだ。 | 50 | 3 | | | | | |
| 41 | | アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。 | 専攻科長 | 1. APIに基づき入学者選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 専攻科推薦および学力・社会人特別入学者入学者選抜要項 | 1. APIに従って入学者選抜を実施している。 2. 検討を行う。 | 60 | 3 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------------------|--|---|---|--|---|--|----|---|--|--|--|--|--|
| 専攻科課程の学生の受け入れ | 42 | 入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 | 専攻科長 | 1. 入学者がAPに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 専攻科推薦および学力選抜の検証 (入学者選抜委員会や専攻科運営委員会等資料) | 1. 入学者選抜方法で適切であることを判断している。 2. 今後改善を行う。 3. 検討を行う。 | 50 | 3 | | | | | | |
| | 43 | 受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。 | 専攻科長 | 1. 受験者数増加対策を検討しているか。 2. 受験者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。 | 4年生に対する広報活動等 専攻科生の状況 入学志願者・入学状況(学校便覧) | 1. 説明会を実施している。 2. 今後検証を行う。 3. 検討を行う。 | 50 | 3 | | | | | | |
| 7. 研究活動の状況 | 研究体制と支援体制 | 44 | 研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。 | 研究主事 | 1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。 2. 研究推進委員会が設置されているか。 3. 研究倫理委員会が設置されているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 長野工業高等専門学校における研究活動に関する基本方針 研究推進組織図 研究支援委員会活動内容(支援体制など) 特別経費申請一覧 科研申請書の添削希望の募集 | 1. 研究推進委員会において研究活動および知財管理について確認した。 2. 研究倫理委員会において2件の審議を行った。 3. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 研究活動の成果 | 45 | 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。 | 研究主事 | 1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。 2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | シーズ集、特許出願件数、科学研究費応募状況 各学科等における研究活動、学生が関わる企業との共同研究件数 | 1. 62名の教員によるシーズ集の発行および研究業績一覧を紀要に掲載。 2. 学生の学会発表や共同研究に関する情報を収集している。 3. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 研究活動の改善 | 46 | 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。 | 研究主事 | 1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。 2. 点検事項を再検討しているか。 | 研究支援委員会活動内容(研究活動の改善など) | 1. 研究推進委員会において研究活動および知財管理の方向について確認。 2. 研究推進委員会において原状を踏まえて点検事項の再検討を行う予定。 | 80 | 4 | | | | | |
| 8. 地域貢献活動等の状況 | 地域貢献活動の計画 | 47 | 地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。 | 総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長) | 1. 地域貢献の目的を定めているか。 2. 活動計画を定めているか。 3. 計画に沿って実施しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 国立高専機構長野高専における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標 広報企画室の活動計画 地域共同テクノセンター年間行事日程 | 1. 広報企画委員会、地域共同テクノセンターにおいて、本年度の活動計画を策定した。 2. 計画に沿って、各種事業・各地域の産業展等への参加を実施し、広報・地域貢献を行った。 3. 再検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 地域貢献活動の成果 | 48 | 地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。 | 総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長) | 1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 広報企画室活動のまとめ 地域共同テクノセンター活動のまとめ | 1. サイエンスライブ、サイエンスツアー、テクノセンター事業等の実施アンケートに基づき、実施の成果を確認している。 2. 実施アンケートより、目的に沿った成果を確認している。 3. アンケート項目・内容の点検はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| | 地域貢献活動の改善 | 49 | 地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。 | 総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長) | 1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 広報企画室活動のまとめ 地域共同テクノセンター活動のまとめ | 1. 実施状況および課題の確認は、広報企画委員会、地域共同テクノセンターにおいて、確認している。 2. 委員会およびセンターでの確認を通じて、成果があがっているかを確認している。 3. 手法の検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | | |
| 9. 財務及び管理運営と情報公開 | 財務関係 | 50 | 適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。 | 事務部長 | 1. 効率的・効果的な収支計画(見積)を策定しているか。 2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 予算配分方針 | 1. 6月29日の執行会議にて予算配分方針案が承認された。 2. 7月6日の運営会議で報告を行った。 3. グループウェアへ資料の掲載を行っている。 | 75 | 4 | | | | | |
| | | 51 | 適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。 | 事務部長 | 1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 予算配分 予算執行集計表、予算差引簿 | 1. 6月29日の執行会議にて予算配分案が承認された。 2. 7月6日の運営会議で報告を行った。 3. 定期的に執行状況を確認し、執行率が低い場合は執行予定等の聞き取りを行い、早期執行を促している。 | 75 | 4 | | | | | |
| | | 52 | 適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。 | 事務部長 | 1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | 学校要覧：財務状況 ・収入・決算額 ・外部資金受入状況 ・科学研究費交付決定状況 HP：財務状況 | 1. 定期的に予算執行状況の把握を行っている。 2. 収入・決算額の状況については、7月にホームページへ前年度の財務状況として(令和4年度)の公表を行った。 | 75 | 4 | | | | | |
| 管理運営 | 53 | 各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。 | 事務部長 | 1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 内部組織規則、各委員会規則 事務組織及び事務分掌規則 各種委員会の活動状況の点検結果(教育改善報告書) | 1. 年度末に次年度の事務組織等の人員配置を検討しており、必要に応じて人員配置の見直しを行っている。 2. 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認している。 3. 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行っている。(令和5年5月「令和4年度教育改善報告書」) | 75 | 4 | | | | | | |
| | 54 | 情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているか。 | 総務主事 事務部長 | 1. 安全管理規則が定められているか。 2. 規則に沿って研修が行われているか。 3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。 | リスク管理規則、情報セキュリティ管理・推進規則 防災マニュアル、情報セキュリティ利用者規則、教職員規則 | 1. 各種関連規則は整備済み。(R4の情報セキュリティ監査で確認済み。) 2. R5.6に防災マニュアルを更新済み。 3. R5.6に防災訓練全体、R5.11に業防災訓練を実施済み。 4. R5.7情報セキュリティe-Learningを実施済み。 5. 令和5年度情報セキュリティインシデント対応訓練(9/4、11/6実施)に伴い情報セキュリティ管理委員会を設置した。 6. 毎月情報セキュリティ推進委員会を開催(4/25、5/29、6/26、7/24、8/30、10/26、11/29)し、情報セキュリティの管理を行っている。 | 75 | 4 | | | | | | |
| | 55 | 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。 | 研究主事 | 1. 外部資金の公募案内を校内に周知しているか。 2. 科学研究費申請書の添削支援を実施しているか。 3. 特許出願に関する支援を実施しているか。 4. 点検事項を再検討しているか。 | 研究支援委員会活動内容(支援体制など) 特別経費申請一覧 科研申請書の添削希望の募集 | 1. 外部資金の公募案内は都度校内に周知。 2. 科学研究費申請書の添削に8名に教員が参加。 3. 6名の教員が弁理士の指導による特許関連事業に参加。 4. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。 | 80 | 4 | | | | | | |
| 56 | 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 | 教務主事 専攻科長 研究主事 | 1. 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 2. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 1. 実務訓練、学外実習、企業書生およびその実施状況資料 産学連携関係の共同研究や共同教育の実施例の資料 企業現場見学実施状況資料 1-2. 第8回教務委員会議事概要 | 1. 実務訓練およびその報告会を例年の形式に戻して実施し、多くの企業等の協力のもと実施ができた。実務訓練のさらなる充実に向けて、また他の研修や見学等の行事でも協力が得られるよう、受け入れ企業募集や説明会の時期の変更等を検討した。 2. 点検事項の確認と検討を行った。 | 100 | 5 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|----|---------------------------------------|--------------|--|-------------------------------|---|-----|---|--|--|--|--|
| | | 57 | 管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。 | 事務部長 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 | SD研修会の実施、 管理運営等の研修会への参加リスト | <ol style="list-style-type: none"> 1. 9/8にタイムマネジメント研修を実施。合計49名受講(本校29名、他高専15名、信州大学9名) 2. 事務部有志にて、業務効率化の勉強会を実施中(6/29、7/5、7/13、8/31、9/21実施済み) 3. 長野高専メンタルヘルス(セルフケア)研修を11/14に実施 4. 長野高専職員海外派遣研修(11/7-10)に2名派遣 5. 高専機構主催の新任校長・新任事務部長研修会(4/26)1名、新任職員研修会(5/29、31)に2名参加 6. 高専機構主催の中堅教員研修会(10/16、17)に2名参加 7. 信州大学主催の財務会計実務研修(9/14、15)に2名参加 8. 関東信越地区高専技術職員研修会(9/11-13)に1名参加 9. 高専機構主催の施設担当者研修会(10/12、13)に1名参加 10. 関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修(10/12、13)に1名参加 11. 関東・甲信越地区国立大学法人等会計事務研修(11/22)に1名参加 12. 関東・甲信越地区実践セミナー(財務の部)(10/19)に1名参加 13. 関東・甲信越地区実践セミナー(広報の部)(11/1)に1名参加 | 100 | 5 | | | | |
| 情報公開 | | 58 | 教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか。 | 総務主事 事務部長 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。 2. 公開状況の点検・整備が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 | 長野高専ホームページ 教育情報 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度の機関別認証評価において、公表内容を審査されている。その後、随時内容を変更している。 2. 公開情報の見直しが行われ、データ更新を行っている。 3. OMSが古いため、年度末のシステム更新を計画し、準備を進めている。 4. 点検の再検討はまだ。 | 80 | 4 | | | | |

達成率

点検事項

の達成率

自己評価

1

達成率 0~20%

2

達成率 21~40%

3

達成率 41~60%

4

達成率 61~80%

5

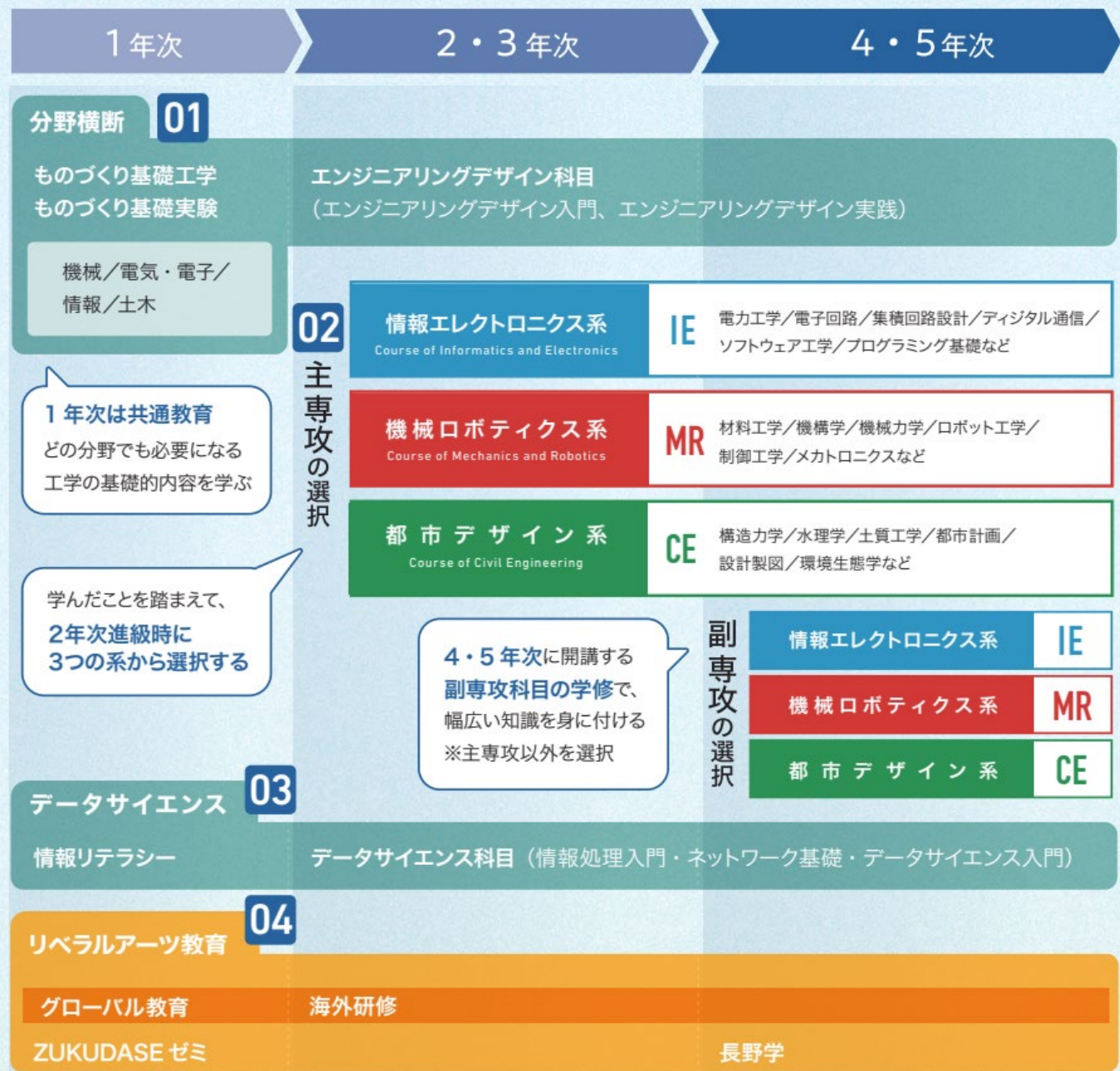
達成率 81~100%

令和5年度参与会

学科改組進捗状況

令和6年1月23日

工学科3系 カリキュラム



主専攻選択状況

1年生が自分の主専攻とする系で学ぶ内容や卒業後の進路に関する情報を得る機会を設定

- 1年生では**ものづくり基礎工学・実験**において各分野の基本的内容を学ぶ。
- 1年生全体に対して、3系の系長による分野の内容に関する**講話**（各20分程度）を受講。
- 1年生と5年生の**交流会**で、卒研究室訪問などにより話を聞く機会を設定。（90分×4コマ）

主専攻選択状況

ものづくり基礎工学・実験ローテーション表

| | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 5組 | 特活等、授業時間外 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 1週目 | IE1_1 | MR1_1 | CE_1 | IE2_1 | MR2_1 | ガイダンス |
| 2週目 | IE1_2 | MR1_2 | CE_2 | IE2_2 | MR2_2 | 第1回主専攻希望調査 |
| 3週目 | IE2_1 | MR2_1 | IE1_1 | MR1_1 | CE_1 | |
| 4週目 | IE2_2 | MR2_2 | IE1_2 | MR1_2 | CE_2 | |
| 5週目 | MR1_1 | CE_1 | IE2_1 | MR2_1 | IE1_1 | |
| 6週目 | MR1_2 | CE_2 | IE2_2 | MR2_2 | IE1_2 | |
| 7週目 | MR2_1 | IE1_1 | MR1_1 | CE_1 | IE2_1 | |
| 8週目 | MR2_2 | IE1_2 | MR1_2 | CE_2 | IE2_2 | |
| 9週目 | CE_1 | IE2_1 | MR2_1 | IE1_1 | MR1_1 | |
| 10週目 | CE_2 | IE2_2 | MR2_2 | IE1_2 | MR1_2 | |
| 11週目 | IE1_1 | MR1_1 | CE_1 | IE2_1 | MR2_1 | 第2回主専攻希望調査 |
| 12週目 | IE1_2 | MR1_2 | CE_2 | IE2_2 | MR2_2 | |
| 13週目 | IE1_3 | MR1_3 | CE_3 | IE2_3 | MR2_3 | |
| 14週目 | IE2_1 | MR2_1 | IE1_1 | MR1_1 | CE_1 | |
| 15週目 | IE2_2 | MR2_2 | IE1_2 | MR1_2 | CE_2 | |
| 16週目 | IE2_3 | MR2_3 | IE1_3 | MR1_3 | CE_3 | |

主専攻選択状況

R4年度

| | 合格者 説明会 | 第1回調査 | 第2回調査 | 本調査 | 変更受付 | 調整後 (確定) |
|----------|------------|-------|-------|-----|------|-------------|
| IE系 (80) | 78 | 91 | 73 | 75 | 75 | 76 |
| MR系 (80) | 54 | 73 | 79 | 79 | 82 | 85 |
| CE系 (40) | 39 | 43 | 54 | 52 | 49 | 45 |
| 未定・不明 | 36 | | | | | |
| 計 | 207 | 207 | 206 | 206 | 206 | 206 |

3月実施
入学前

5月実施
入学後

8月実施
ものづくり基礎
全分野受講

12月実施
1年・5年
交流会実施

※4名が第2希望に移動

R5年度

| | 合格者 説明会 | 第1回調査 | 第2回調査 | 本調査 | 変更受付 | 調整後 |
|----------|------------|-------|-------|-----|------|-----|
| IE系 (80) | 76 | 104 | 90 | 74 | 78 | 80 |
| MR系 (80) | 37 | 56 | 68 | 92 | 87 | 85 |
| CE系 (40) | 32 | 44 | 46 | 38 | 39 | 39 |
| 未定・不明 | 59 | | | | | |
| 計 | 204 | 204 | 204 | 204 | 204 | 204 |

3月実施

5月実施

8月実施

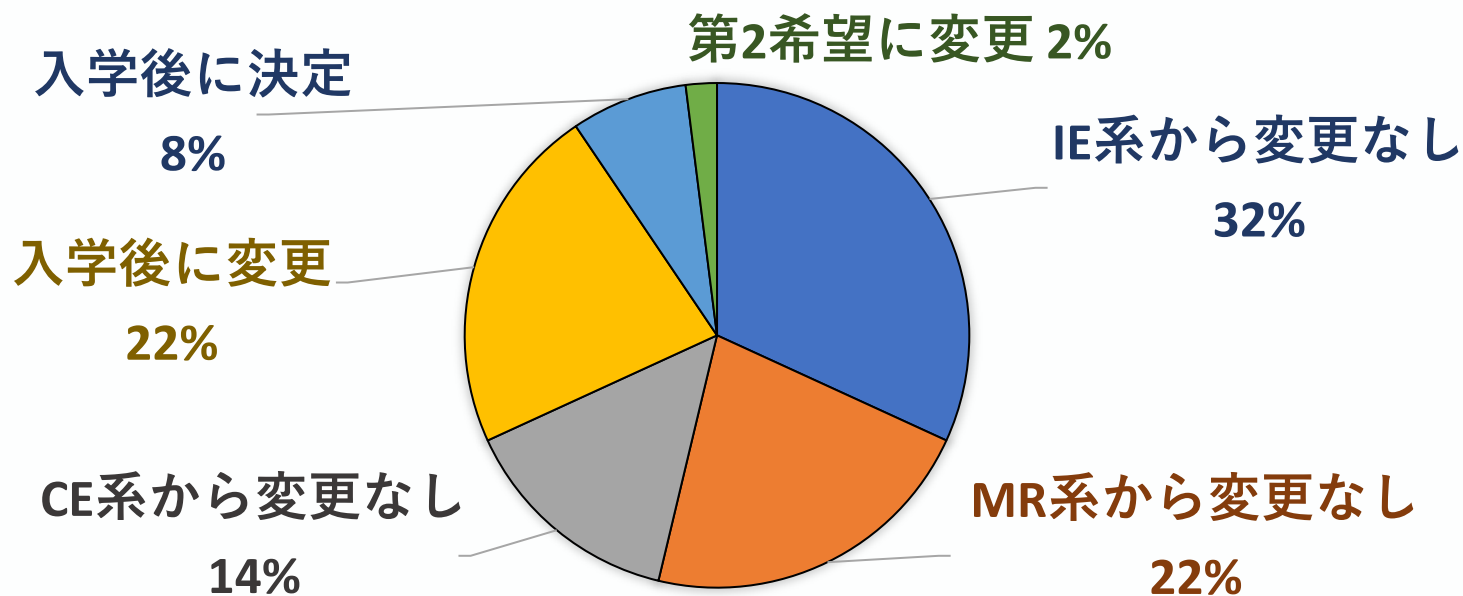
12月実施

※2名が第2希望に移動

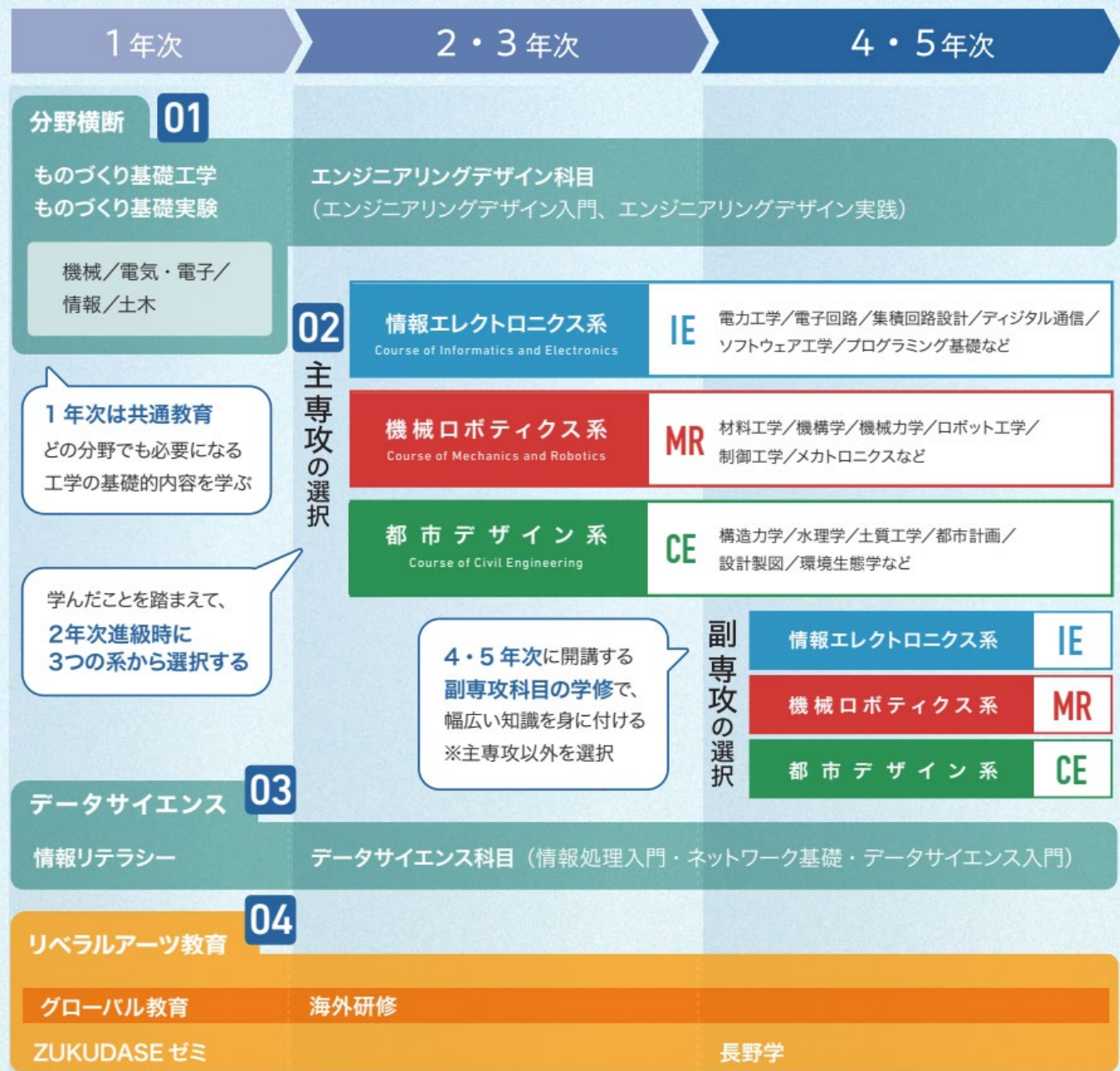
主専攻選択状況

R4年度入学生の最終的な選択への過程（調査後のアンケート回答数：201）

- ・ 入学時から希望変更なし **137名**
- ・ 入学時希望する系が未定 **15名**
- ・ 入学時の希望の系を変更 **45名**



工学科3系 カリキュラム



学年進行状況 【1年生】

ZUKUDASEゼミ

少人数のグループで実施する演習科目

学生の興味関心を元に課題を自ら設定し、
調査・研究・発表・討論のプロセスを経て
自発的な学習のためのスキルを身につける

学年進行状況 【1年生】

ZUKUDASEゼミ R5年度のテーマ例

- ビブリオバトルを楽しもう！
- 挫折のしないロックンロールギター
- 言葉をめぐる冒険
- ドローンを飛ばしてみよう
- 数式を図形で考える
- ゲームで数学
- 回る回る回る
- おいしい水について考える
- その常識ホント？実験で確かめよう



学年進行状況 【2年生】

グローバルエンジニア育成プログラム

- ・ネイティブ教員による少人数英会話演習
- ・海外研修（台湾・R5年度全員参加）



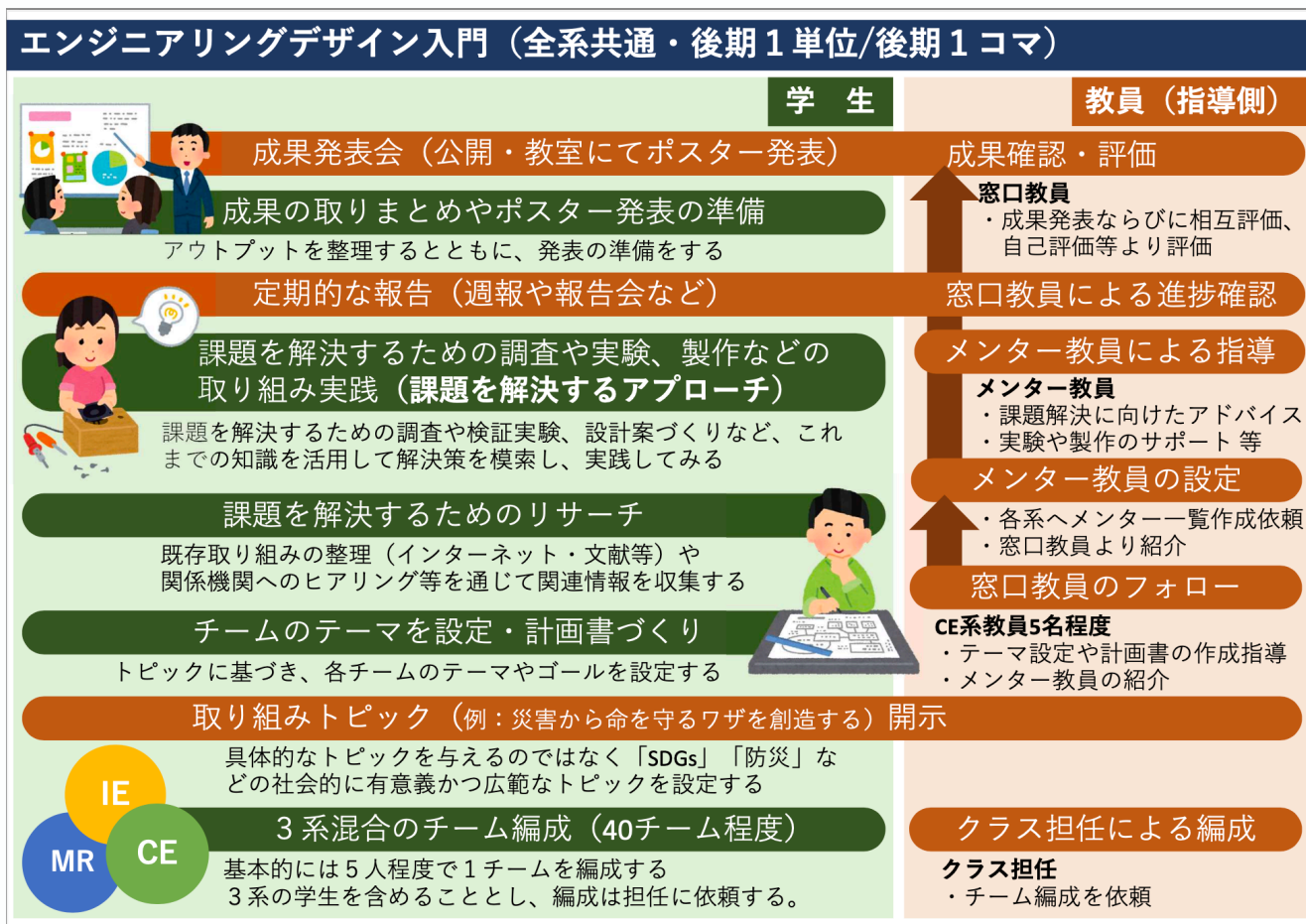
学年進行状況 【2年生】

エンジニアリングデザイン入門

- 4年次の**エンジニアリングデザイン実践**の導入となる授業
- テーマに沿った情報収集、協力、課題解決の作業とそのまとめ方を学ぶ
- 学生達がトピックに沿って「課題」や「不思議に思うこと」を発見し、実施期間内に自らスケジュール管理しながら、課題や不思議を解決するための情報収集と作業をチームで協働して行うプロセスを体験する

学年進行状況【2年生】

エンジニアリングデザイン入門



学年進行状況 【2年生】

エンジニアリングデザイン入門

メンター一覧

| 系 | 教員名 | 専門分野 | メンター | アドバイザー | アドバイス可能な具体的な内容 | | | |
|----|-------|------------------------|--------|--------|--------------------------------------|---------|---------|------------|
| MR | 小林 裕介 | メカトロニクス, FA | 1チーム程度 | 1回/週程度 | かんたんなCAM試作 | | | |
| MR | 花岡 大生 | 加工, 設計等 | IE | 力丸 彩奈 | 機械学習, 画像処理, データ分析 | 出来る限り対応 | 出来る限り対応 | AIデ 画解 |
| MR | 門脇 廉 | 機械・生体・食品の形と きの分析・評価 | | | | | | |
| MR | 中村 尚誉 | 機械部品の加工, 生産に する分野 | IE | 富岡 雅弘 | ヒューマンインタフェ ース, モーションキャ プチャ, VR | 2チーム程度 | 出来る限り対応 | ヒト |
| MR | 柳澤 憲史 | 人間工学・界面・摩擦・ 水 | | | | | | |
| MR | 相馬 顕子 | 熱流体 | MR | 長坂 明彦 | 機械的性質 | 1チーム程度 | 1回/週程度 | 機械 |
| MR | 召田 優子 | 動作解析, 仮想化 | MR | 岡田 学 | 機械要素, 機械計測 | 1チーム程度 | 1回/週程度 | ねじ |
| CE | 遠藤 典男 | コンクリート橋の維持管 について | MR | 小野 伸幸 | 機械・電子回路設計, 機械 加工等 | 1チーム程度 | 1回/週程度 | 機械 作等 |
| CE | 大原 涼平 | 建設材料(特にコンクリ ート) | MR | 北山 光也 | 機械設計 | 1チーム程度 | 1回/週程度 | 強度 |
| MR | 宮下 大輔 | | | | ものづくり全般 | 1チーム程度 | 1回/週程度 | 3Dブ 加工, |

今後の予定

専門科目の選択に関する指導

履修モデルの整備

ポートフォリオの活用

4年次副専攻科目ほか、完成年度
までの科目に関するシラバス作成

令和5年度参与会

JABEE受審報告

令和6年1月23日

JABEE受審沿革

産業システム工学プログラムの構成

学科（準学士課程）4年生、5年生： プログラム 1年生、2年生

専攻科（学士課程）1年生、2年生： プログラム 3年生、4年生

専攻科に入学する時点でプログラム登録

2003年度：JABEEプログラム「産業システム工学プログラム」と決定

2005年度：新規審査受審；JABEEプログラム認定

2007年度：中間審査

2010年度：認定継続審査受審；JABEEプログラム継続認定

2013年度：中間審査受審

2016年度：認定継続審査受審；JABEEプログラム継続認定

2020年度：非JABEEコース 連携教育プログラム（豊橋技科大）設置

2023年度：認定継続審査受審（2022年度分を1年遅れで実施）

有効期間：認定審査から最大6年間

R5年度受審結果

- すべての項目において「S」評価
- 現3年生が専攻科を修了する年度まで認定見込
- **JABEE**評価の標語
 - 「S」：満足（改善を促すコメントを含む）
 - 「W」：弱点
 - 「D」：欠陥

コメント1：基準1.2

・学習・教育到達目標の設定と公開・周知

学内で、「学習・教育目標」を使用しており、自己点検書などのJABEE資料内にも「学習・教育到達目標」との混在があり、JABEE資料としては、後者の文言に統一する改善が望まれる。

対応

「学習・教育到達目標」に統一する
学生便覧等、現在まで「学習・教育目標」と記載しているため、「学習・教育到達目標」に統一する。
対象：専攻科運営委員会、教務委員会、学生支援委員会、教育改善委員会

コメント 2 : 基準2.2, 3.1

・シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習

シラバスの記述フォーマットが定められているなど、シラバスに対して非常に配慮されていることが伺えるが、一部で語句の不統一などが見受けられる。教員がシラバスを作成する時、またその後の学科主任などのエビデンスシート点検時、各時点できめ細かい注意を払う改善が望まれる。

対応

当該科目に関する範囲では語句の扱いを統一する。

対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

コメント 3 : 基準2.2

・シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習

学生自身が学習・教育到達目標の達成度を点検・確認して、主体的な学習に取り組む促進に繋がるとの観点で、学生自身の達成度の確認・点検を周知する改善が望まれる。

対応

学生による「学習・教育到達目標」達成度の点検・確認の周知を行う。

対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

改組後の学生について

- 工学科への改組に伴い、現「産業システム工学プログラム」と整合しない。
- 工学科学生については、新規プログラム申請が必要
- 現工学科2年の学生については、実質的修了生となる見込み

令和5年度参与会

自己点検・評価項目の評価手法について

令和6年1月23日

自己点検・評価項目の評価手法について

- 令和4年度参与会における指摘

自己評価の基準が曖昧

PDCAが回っていない

- 評価手法の検討

(1) 実施すべき事項の具体化

(2) 実施効果の改善への取り組み

(3) 実施結果の数値化

これらを含む手法の適用

自己点検・評価項目の評価手法

- 点検項目に対応する「点検事項」の設定
- 四半期でのチェックの実施
- 効果改善に向けた「点検項目・事項」の再検討
- 上記実施率による数値化

懸念事項

- ルーティンワーク、形式的評価に陥らないか

長野高専の教育理念、教育・運営方針、ディプロマポリシー、
カリキュラムポリシー、学習・教育目標

本校の教育理念，教育・運営方針

本校の教育理念および教育・運営方針は次のように設定されています。また，それに沿って定められた目標とする人材像及び各学科の教育上の目的は以下のとおりです。

■教育理念

「優れた技術者は，優れた人間でなければならない。」

■教育・運営方針

1. 本校の教育理念に基づき，豊かな人間性と独創力，創造力を身に付けた実践的技術者を養成する高等教育機関としての教育体制を維持し，科学技術の高度化及び社会問題・グローバル化に対応し得る技術者を育成する。
2. 地域と連携し，地域に密着した学校運営を行う。また，地域から期待され，愛される学生を育成し，社会から要請されている高等教育機関としての使命を果たす。

■目標とする人材像

1. 工学の基礎知識を備え，倫理観を持ち，自ら問題を発見し，技術的知識・技能を駆使して問題を解決していくことができる実践的技術者
2. 幅広い教養を備え，社会，環境等の諸問題に自ら関心を示し，リーダーシップを発揮して積極的に社会に関わっていく人材
3. 文化の多様性を認識し，自ら諸外国との交わりに関心を抱き，国際社会に貢献できる人材

工学科のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針） （令和4年度1年生）

自ら課題を発見し解決することができるよう主体的に学び、以下に示す能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 工学全般にわたる基礎学力，応用力及び一般教養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. 社会のグローバル化に対応する能力
4. 様々な人々との協働力

工学科のカリキュラムポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針） （令和4年度1年生）

1. 理数系及び人文社会系などのリベラルアーツ科目と，専門共通科目，専門科目，データサイエンス科目，分野横断科目，副専攻科目を授業科目として編成します。
2. 実践的な問題解決型学習，アクティブラーニング，実験・実習，卒業研究などを通じて，課題の発見能力，解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。
3. 異文化を理解し，コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。
4. 地域の文化を理解し，人間力を育成する授業科目を編成します。

上記により設定される各科目における達成度評価は，それぞれのシラバスに基づき，試験，課題等を考慮して，100点満点によって評価します。

5 学科の教育上の目的 (令和4年度2年生から5年生)

| 学 科 名 | 教育上の目的 |
|---------|--|
| 機械工学科 | 自動車やロボット等の各種機械の開発・設計ができ、それらを作り出すために必要な製造・生産技術を駆使できる能力を身につけ、機械工学を社会との関連の中で捉えながら、技術革新に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。 |
| 電気電子工学科 | 電気及び電子工学の将来の進歩に対応して活躍できるよう、基礎理論をしっかり身につけ、環境との共生に配慮しつつ、電力・電子・情報の各分野を包括して、電気電子システムを統合的に構築できる実践的・創造的な技術者を養成する。 |
| 電子制御工学科 | 各種機械装置の自動化に対応できるメカトロニクス技術者の養成を目的とし、その基盤となる機械、電気・電子、コンピュータや制御に関する基礎的な工学技術や、これらを有機的に結びつけて一つのシステムを構築できる総合力を身につけ、製品開発や設計、生産技術の場で活躍できる実践的・創造的な技術者を養成する。 |
| 電子情報工学科 | 電子工学に関するハードウェア技術及び情報工学に関するソフトウェア技術に加え、コンピュータ科学に関する総合的技術を有し、今日の高度情報社会で必要とされる幅広い技術分野に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。 |
| 環境都市工学科 | 環境にやさしい理想のまちづくりや、かけがえのない生活環境を次世代に引き継ぐことを目指し、自然環境や社会環境に配慮し、かつ安全にして文化的な生活が営まれるような社会基盤の整備に当たる実践的・創造的な技術者を養成する。 |

5 学科のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針） （令和4年度2年生から5年生）

目標とする人材像と各学科の教育上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 工学全般にわたる基礎学力，応用力および人文社会科学の素養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. グローバル化への対応能力

上記に加え，各学科において身につけるべき能力を以下に示します。

| 学 科 名 | 各学科において身につけるべき能力 |
|---------|--|
| 機械工学科 | 機械工学に関する設計，製作，計測などものづくりに必要な知識・技術 |
| 電気電子工学科 | 電気電子工学におけるエネルギー変換，エレクトロニクスおよび情報通信に関わる各分野の知識・技術 |
| 電子制御工学科 | 電子制御技術に関する機械工学分野，電気・電子工学分野および制御・情報工学分野の知識・技術 |
| 電子情報工学科 | 電気電子工学，情報工学に関するハードウェア・ソフトウェアの知識・技術 |
| 環境都市工学科 | 環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関するまちづくり・社会基盤デザインの知識・技術 |

本校のカリキュラムポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針） （令和4年度2年生から5年生）

ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。

1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。
2. 実践的な問題解決型学習，アクティブラーニングによる学習，実験実習，卒業研究などを通じて，課題の発見能力，解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。
3. 異文化を理解し，コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。

上記に加え，各学科のポリシーを以下に示します。

| 学 科 名 | ポリシー |
|---------|--|
| 機械工学科 | 機械工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに設計製図，工場実習，工学実験などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。 |
| 電気電子工学科 | 電気電子工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに電気電子工学実験，電気工事士セミナー，電気電子製図などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。 |
| 電子制御工学科 | 機械工学，電気・電子工学及び制御・情報工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。 |
| 電子情報工学科 | 電気電子工学及び情報工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習，情報処理演習などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。 |
| 環境都市工学科 | 環境都市工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに実験実習，設計製図などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。 |

上記により設定される各科目における達成度評価は，それぞれのシラバスに基づき，試験，課題等を考慮して，科目担当教員が100点満点によって評価します。

「身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）」

本校では、教育理念、教育・運営方針等に沿って、以下の身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）を定めています。身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）は、本校卒業時の目標とすべき人材像に照らして設定したものです。

- (A) 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。
 - (A-1) 社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。
 - (A-2) 健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。

- (B) 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）
 - (B-1) 自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。
 - (B-2) 環境や社会における課題を理解し論述できる。

- (C) 機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。
 - (C-1) 数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。
 - (C-2) 工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。

- (D) 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。
 - (D-1) 基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。
 - (D-2) 基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。
 - (D-3) 基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

- (E) 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。
 - (E-1) 科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。
 - (E-2) 習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

- (F) 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。
 - (F-1) 学習成果を文章、図等により表現できる。
 - (F-2) 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

- (G) 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。
 - (G-1) 自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。
 - (G-2) 実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ

令和3年12月6日 第14回執行会議承認

1. 目的・ビジョン

本校の教育の質保証のために、内部質保証システムとして、いくつかの点検・改善システムを構築し、それを実施することにより、教育の改善を図る。

すなわち、目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取組み、ディプロマ・ポリシーに示す能力等を身に付け卒業・修了できるよう、教育研究等の活動を点検し、改善していくための各種点検・改善システムを構築する。

2. 各種点検・改善システム

- 2-1 自己点検評価項目による点検システム 【別紙1】
- 2-2 年度計画項目による点検システム 【別紙2】
- 2-3 三つの方針の点検・改善システム 【別紙3】
- 2-4 各委員会の重点項目の点検システム 【別紙4】
- 2-5 授業改善システム 【別紙5】
- 2-6 学生への支援体制点検システム 【別紙6】

3. 点検・改善システムの PDCA サイクル

学校全体の質保証のための各種点検・改善システムの PDCA サイクルを示す。

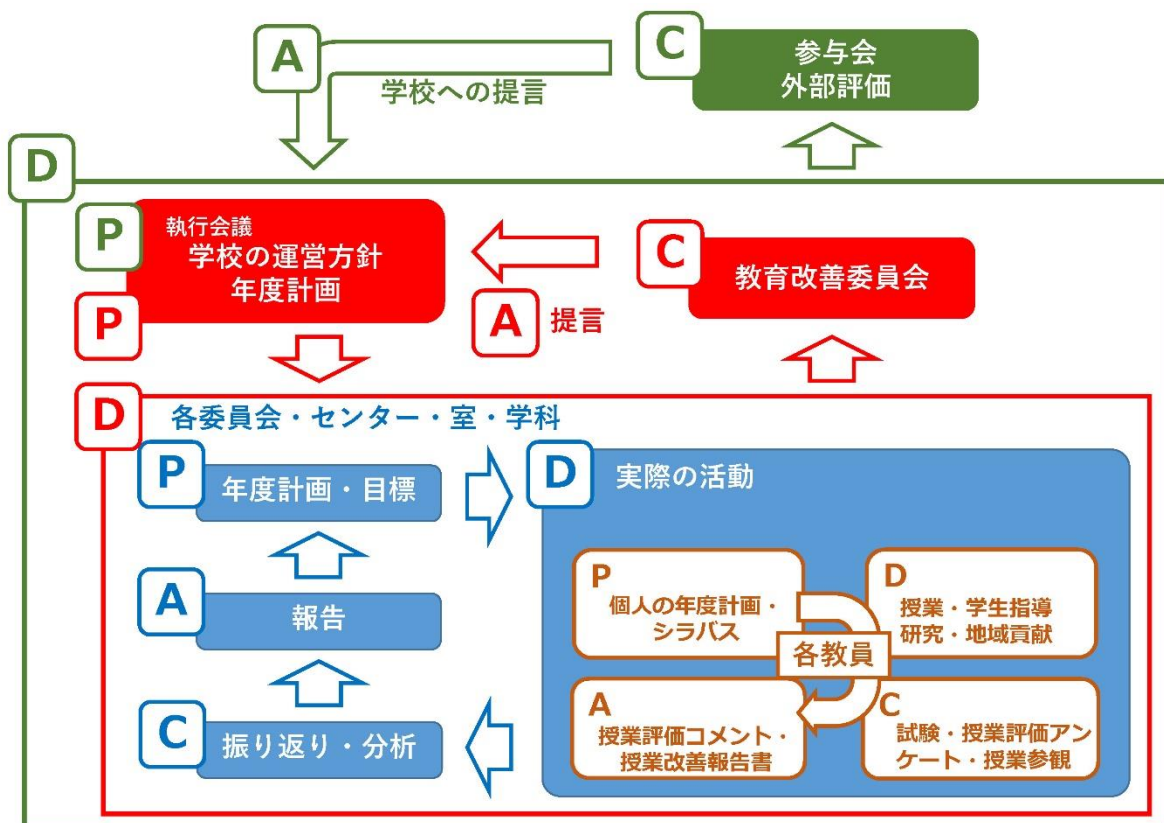


図1 学校全体の質保証のための点検・改善システムの PDCA サイクル

4. タイムスケジュール

各種点検・改善システムの年間のタイムスケジュールを示す。執行会議（総務主事と教育改善委員会）が主となり、このタイムスケジュールで、各種点検・改善システムを進めていく。

表1 各種点検・改善システムのタイムスケジュール

: 執行会議（総務主事） : 教育改善委員会 : 委員会・教員

| 月 | 点 検 項 目 | | | | | |
|----|-----------------|-------------------|------------|------------------|---------------|-------------------|
| | 自己点検 評価項目 | 年度計画項目 | 3ポリシー | 各委員会 | 授業改善 | 学生支援 |
| 4 | 点検項目確認 (見直し) | 年度計画策定 | | 重点項目・活 動計画の策定 | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | 確認 修正検討 | | | 授業評価アン ケート実施 |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | 点検書作成 | |
| 10 | | | | | 提言提示 | |
| 11 | | フォローアッ プ(進捗状況) | | | | 授業評価アン ケート実施 |
| 12 | 評価書作成 | | | | 授業改善 報告書提出 | 本科:学生との 意見交換会 |
| 1 | | | | | | |
| 2 | 参与会での 点検・評価 | | | | | 専攻科:学生と の意見交換会 |
| 3 | | 年度計画報告 | | | | 学生への 満足度調査 |
| | | 年度計画点検 | | | | 点検・提言 |

2-1 自己点検評価項目による点検システム

1. 目的

機関別認証評価で定められている「教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること」を行うために、機関別認証評価項目を参考に自己点検評価項目を設定して、担当者が毎年自己点検評価を実施し、改善に繋げる。また、参与会（外部評価委員会）に評価して頂き、改善を行う。

2. 自己点検評価項目による点検システム

2-1 執行会議で自己点検評価項目の確認と見直しと点検書を策定する。 (Plan)

2-2 各委員会等の活動 (Do)

各委員会等は、各委員会の年度計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 自己点検項目を基に点検・評価・分析 (Check)

各項目の担当者は、点検書に基づき、点検・評価・分析（改善点）を行い、自己点検評価報告書を作成する。また、参与会（外部評価委員会）に提示し評価して頂く。

2-4 改善点の提言 (Act)

執行会議で、自己点検および参与会（外部評価委員会）の点検・評価結果より、評価・提言をまとめる。また、4年に一度自己点検評価報告書を公開する。

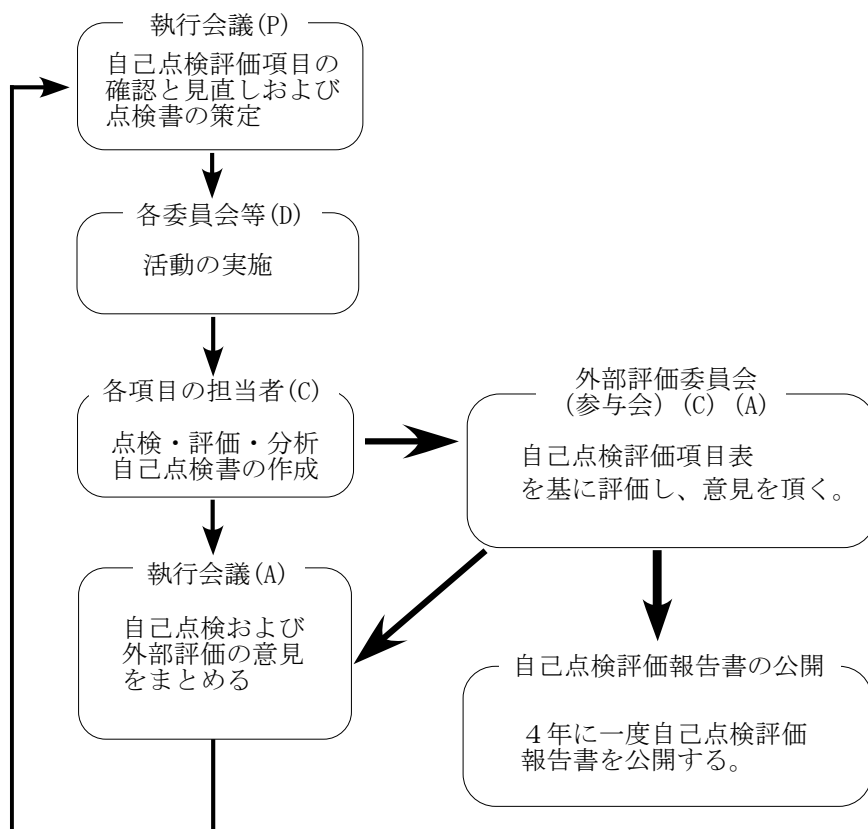


図 2-1 自己点検評価項目による点検システム

3. 自己点検評価項目による点検システムの点検計画

以下のように点検を実施していく。

- 1年目 ・自己点検評価を全項目対して行い，根拠資料も含めて自己点検評価報告書を作成し，参与会で全項目の外部評価を行い公表する。
- 2年目 } ・変更・改善点を修正し，自己点検評価報告書を書き直す。
- 3年目 } ・参与会で全項目の外部評価を行う。

- 4年目(1年目)・自己点検評価を全項目対して行い，根拠資料も含めて自己点検評価報告書を作成し，参与会で全項目の外部評価を行い公表する。

2-2 年度計画項目による点検システム

1. 目的

高専機構に毎年年度計画を提出し、進捗状況と実績報告を高専機構にしている。この活動が適切に行われているか、各部署で自己点検を行い、その結果を教育改善委員会が点検する。

2. 年度計画項目による点検システム

2-1 執行会議が年度計画を策定 (Plan)

各担当部署は、自己点検・評価および教育改善委員会からの点検結果をもとに、年度計画を策定する。

2-2 各担当部署の活動 (Do)

各委員会等は、年度計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各担当部署および教育改善委員会の点検・評価 (Check)

各担当部署は、年度計画の自己点検・評価を行う。教育改善委員会は、その点検・評価をもとに、点検・評価を行う。

2-4 改善の提言 (Act)

各担当部署は、次年度に向けて、改善点をまとめる。教育改善委員会は、各担当部署に点検を提言する。

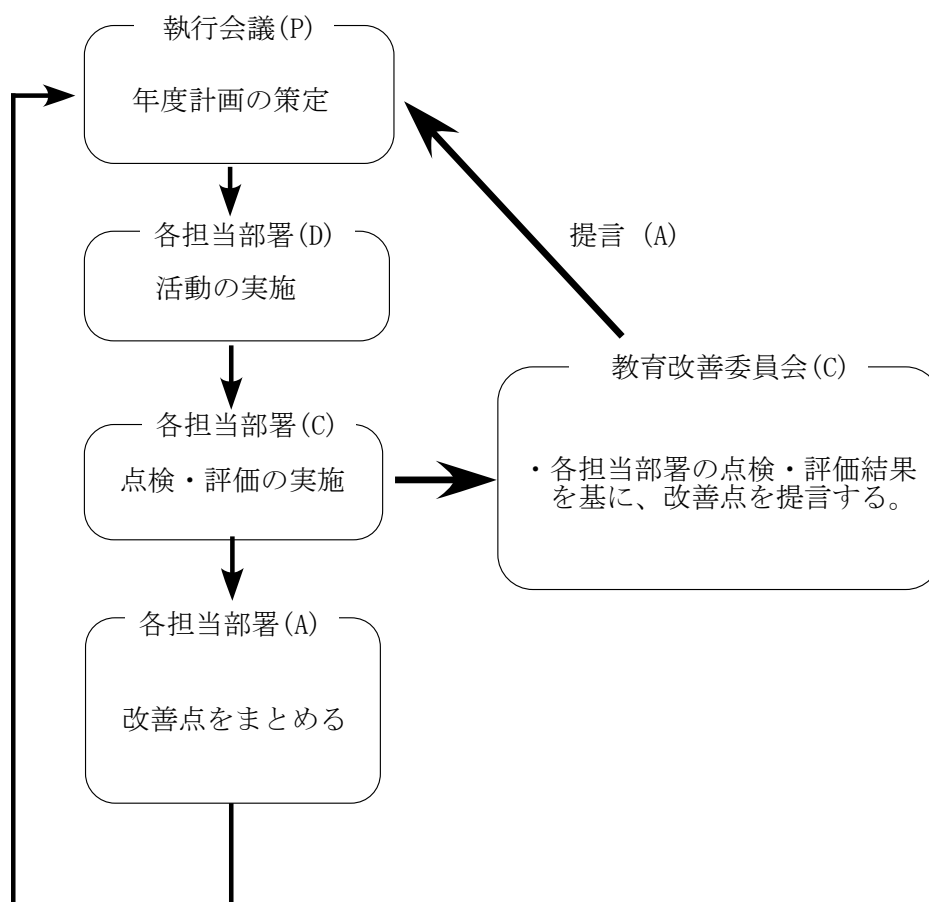


図 2-2 年度計画項目による点検システム

2-3 三つの方針の点検・改善システム

1. 目的

大学改革の一環として、2017（平成29）年4月から、すべての大学・高専に対して、「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）、「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）、「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）という「三つの方針」の策定と公開が義務付けられた。策定後、それらの方針が社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているかを点検する必要があるため、以下の点検・改善システムを実施する。

2. 三つの方針の点検・改善システム

2-1 執行会議が三つの方針を策定（Plan）

執行会議が、学校の目的を踏まえて3つの方針が整合性を持つように、三つの指針を策定する。

2-2 各担当部署の活動（Do）

三つのポリシーに基づき、各委員会等で入試の実施、教育課程表の確認と見直し、卒業認定の実施などの活動を行う。

2-3 執行会議での点検・評価（Check）

外部評価委員会（参与会）、自己点検評価報告書、卒業生および企業等に対するアンケート調査、学生への支援体制の点検システムなどの各担当部署の評価や提言をもとに、執行会議において、三つのポリシーの点検・評価を行う。

2-4 改善の提言（Act）

執行会議において、改善点をまとめる。

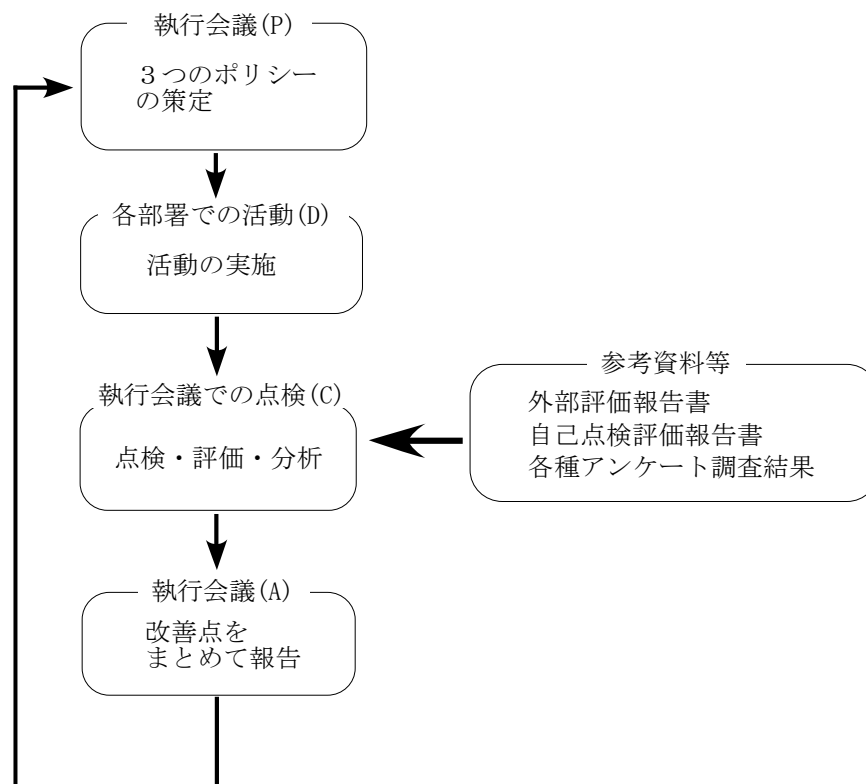


図2-3 三つの方針の点検・改善システム

2-4 各委員会の重点項目の点検システム

1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。その PDCA サイクルを示す。

2. 各委員会の重点項目の点検システム

2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan)

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を定める。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会は、委員会独自の視点から、自己分析を行う。

2-4 各委員会の改善 (Act)

各委員会は、年度末にその年の重点項目に対する取組結果報告を行い、次年度への改善点等を示す。

2-5 各委員会の点検(Check)と提言(Act)

教育改善委員会は、各委員会の点検を行い次年度への提言を行う。

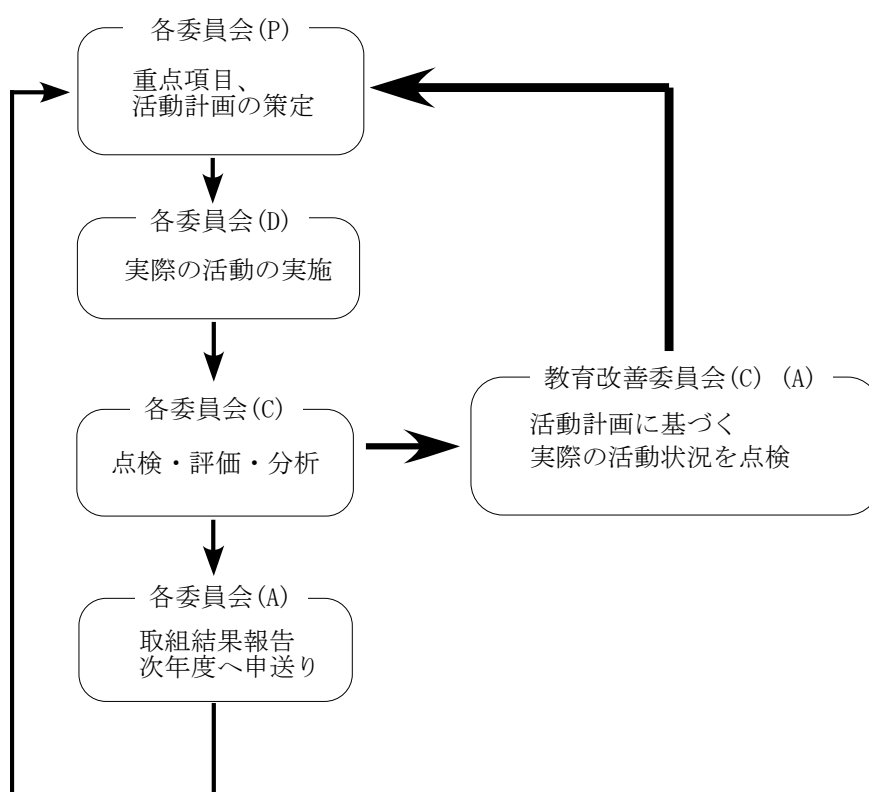


図 2-4 各委員会の点検システム

2-5 授業改善システム

1. 概要

教員は、常により良い授業を目指して努力している。しかし、その教授方法や効果については、独自の評価が多く、客観的に評価される場合は少ない。そこで、各方面(学生、教員、教育改善委員会)より授業に関する意見を調査・分析し、効果的な授業のあり方を検討し、授業改善に役立てる。

教育改善委員会は、各教員が適切な改善を行っているかをチェックし、その結果をチェック・提言シートに記入して、各教員へ授業に関する提言を行う。教員は、これによりPDCAサイクルを作り、授業改善に努めて行く。

2. 改善システム

2-1 教員の授業計画 (Plan)

各教員は、教授内容を決めて、シラバスにその計画を示して、学生に提示する。

2-2 教員の授業実施 (Do)

各教員は、シラバスに基づき授業を行う。

2-3 教員の授業分析 (Check)

各教員は、以下の2つの視点から、各科目の授業分析を行う。

- 1) 学生より、授業評価アンケート、メール目安箱、意見交換会 など
- 2) 教員より、授業公開、科目間連携会議、科会、エビデンス閲覧 など

2-3-1 学生からの評価による分析

・ 授業評価アンケート

各教員は、任意の1科目に対して、年2回の授業アンケート調査を行い、その結果をもとに授業方法等の分析を行う。その結果をコメント(分析と課題)として、教員・学生に公開する。

・ その他

メール目安箱や学生との意見交換会での、科目に対する要望・意見から授業方法等の分析を行う。

2-3-2 教員からの評価による分析

・ 授業公開

前期・後期に1週間ずつ年2回授業公開日が定められており、他の教員が授業参観を行う。そのアンケート結果をもとに授業方法等の分析を行う。

・ その他

科目間連携会議での要望・意見より、教員は授業方法等の分析を行う。

科会による科目への要望・意見より、教員は授業内容・方法等の分析を行う。

エビデンス閲覧(テスト・レポートなどの閲覧)による他の教員からの科目への要望・意見より、授業内容・方法等の分析を行う。

2-4 教員の授業改善 (Act)

各教員は、分析結果をもとに授業改善を行い、シラバスや授業に反映させ、その成果を「授業改善報告書」として提出する。

2-5 改善のチェック(Check)と提言(Act)

教育改善委員会は、①から⑥のチェックを行い、その結果をチェック・提言シートに記入して、各教員へ授業に関する提言を行う。

- ① エビデンスチェックを行う。
教育改善委員会 WG は、年度当初に前年度のエビデンスが、シラバス通りに提出されているかチェックを行い不備がある場合は、各担当教員に提出物確認票を渡し、再提出を求める。
- ② 試験問題レベル保証確認をチェックする。
産業システム工学プログラム科目（JABEE 対象科目）で学習・教育目標が（C-1）あるいは（D-1）を主たる目標としている科目の試験問題等が、技術士一次試験相当のレベル以上であるかを、各教員 1 科目（専攻科科目を優先）申請し、担当者以外の 2 名の教員により評価を行う。
- ③ 学生からの授業アンケートの実施状況をチェックする。（教務委員会に確認する）
- ④ 教員からの授業公開アンケート結果をチェックする。
- ⑤ 教員からの授業アンケートへのコメント状況をチェックする。
（教務委員会に確認する）
- ⑥ 教員より提出された授業改善報告書をチェックする。
- ⑦ チェック結果を、チェック・提言シートへ記入し、各担当教員へ授業に関する提言を行う。

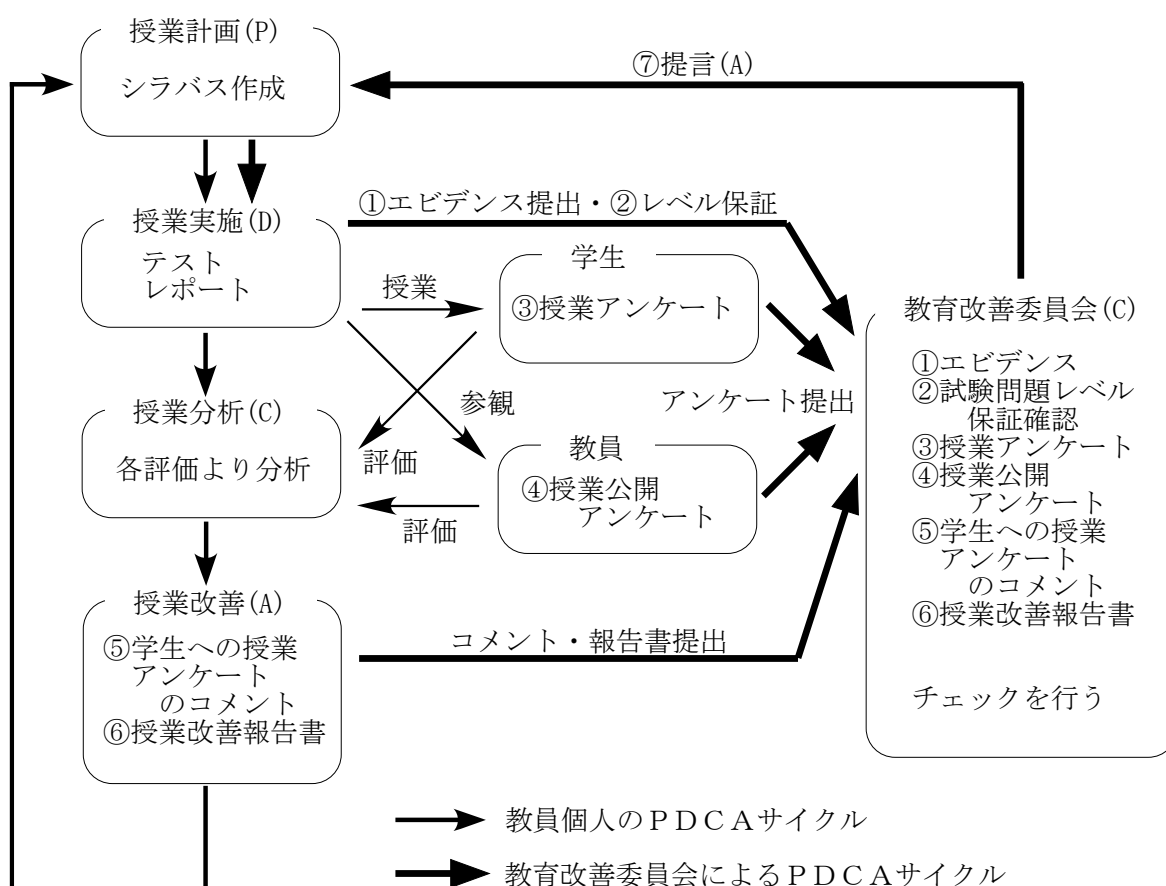


図 2-5 授業改善システム

2-6 学生への支援体制の点検システム

1. 目的

教育を実施する上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制，また，学生の課外活動に対する支援体制等が，整備され機能していることが必要である。

このため，学生との意見交換会，授業評価アンケート，学習教育目標達成度自己評価，学生への満足度調査を行い学生の意見・要望を聞いて，学生への支援体制を点検し，改善していく。

2. 支援体制の点検システム

2-1 各委員会による学生への支援体制計画の策定 (Plan)

各委員会は，年度当初にその年度に学生への支援として行うことをまとめ支援活動等計画を定め，教育改善委員会に提出する。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は，学生への支援活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会および教育改善委員会は，学生との意見交換会，授業評価アンケート，学習教育目標達成度自己評価，学生への満足度調査を行い学生の意見・要望を聞き，学生の満足度を把握する。

2-4 各委員会の改善 (Act)

教育改善委員会は，学生の満足度の点検を行い，各委員会へ提言を行う。

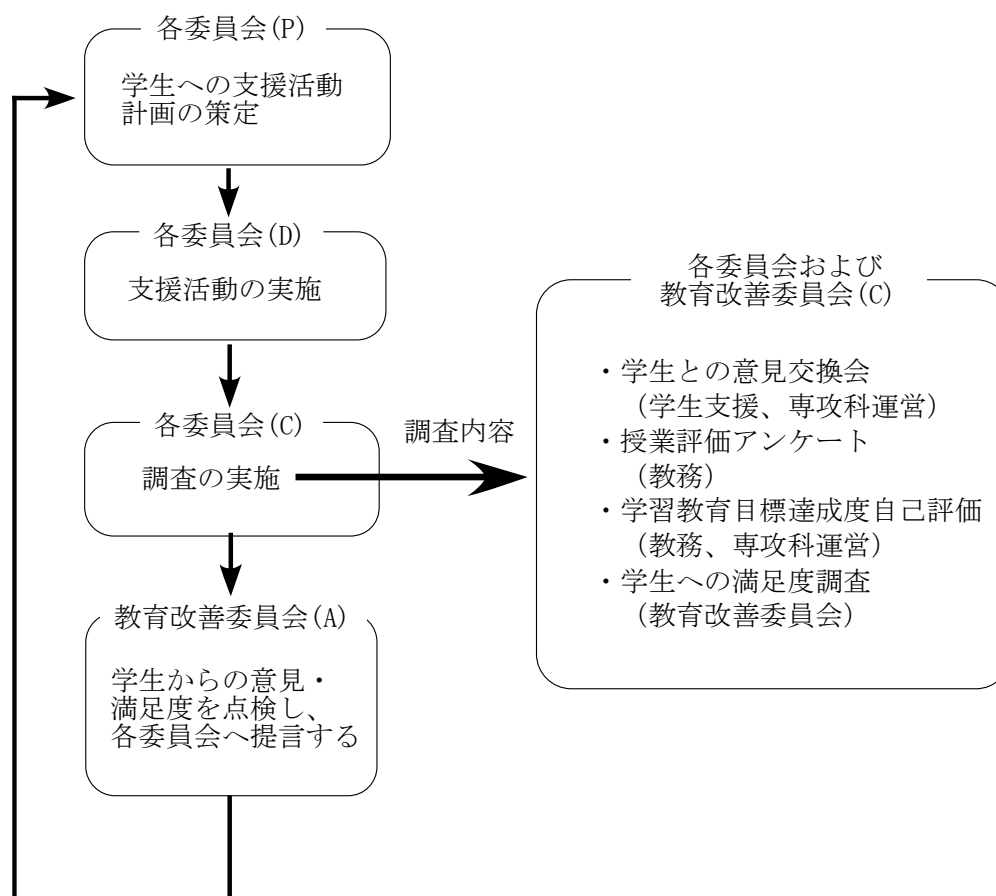


図2-6 学生への支援体制点検システム